

翻刻『芙蕖館日記』(三)

芙蕖館日記研究会

(表紙)

町田長十
示野弥一郎

寛政三辛亥歲

大日記全

正月吉祥日

(見返)

執筆

芙蕖館執生

元之助

勘助

十太

翻刻芙蕖館日記(二)

正月大 建庚寅月 宿值奎 二日節分 三日立春
十八日雨水

朔日子晴 酷寒 今朝、赤坂裏傳馬町中通り二十軒程
焼失。

元朝之御儀式、如例。御密固 今日、大人始御出無
之。

二日丑 晴 風有、寒不堪。 節分□五ッ半。

三元之御儀式、如例。同上 大人、今日、瀧ノ口邊御年始御

勤被遊候。松平能登守殿 鶴洲侯 細川越中守殿
戸田采女正殿 本多伊豫守殿 米田播磨守殿 今夕、昨朔日、

元之助值性之日故、祝宴之所、今夕ニ致ス。且、琴叔母

君、今日值性日故、則同敷、祝宴有リ。庖調如左。尤節

分も籠メ申候。

御酒 みか丸 御吸物 大平目 御硯蓋 長いも 平目小くし 御井 三杯漬

大石カレイ ウド 御吸物 ハマクリ 御中鉢 タコノ三杯煮 御大鉢

カブラホ子 セフカ 御猪口 海鼠臘 同 鱒

大石かれいの丸わけ 御猪口 海鼠臘 同 鱒

三日 寅 晴 夜ニ入リ遠火、早ク滅ス。

三元之御儀式、如例。 大人、龍土赤坂邊御勤、
伊達遠江守殿松

平本之丞殿 黒田甲斐守殿
京極彦岐守殿 矢田半蔵也も

右之外無事。

四日 卯 晴 夜ニ入リ遠火二所。 早ク滅ス(一)

大人、今日、品川東海寺に御年頭御勤被遊候。

五日 辰 晴風 夜ニ入リ遠火 本庄、下谷、日本橋、深川等 五六度有リ。皆

早ク滅ス。

大人、元之助、今朝六ッ過青山年始如例年 尤元之助、今日始て所々年始ニ出申候。

大人、青山斗、夜ニ入リ御帰宅。元之助帰りかけニ龍土

邊相勤申候 伊達遠江守殿松平三郎二郎殿 白金、年始ニ御出被遊候。 且

又、青山に之年玉ハ如左。

第二本 秀五郎に同上 下之分は同、沓人ッ、之あてに致て

遣し申候。 長十郎にたはこ十友 新助に油二本 小僧に小油

カッタシ さつ に下村之白粉一袋 尺長小切二十四枚 とめ にまけゆひ十六文 以上

上ノ分ハ包紙料紙、上ニとし玉ト認 紅白之水引、下ノ分ハ半紙青紅。

今日、於青山、足袋并ニ元之助尋常之衣服染代、合三分

二匁払来候。

六日 巳 晴

今日、三人共、如例年。 田町三嶋明神祭禮、通宵序ニ年

始相勤申候。 翼朝五ッ時御帰宅。 尤、世子參詣之跡ニて別ニ御參詣、夫々直御帰。 大

人、夕七ッ時、渡邊宅人日之例會并渡邊北堂 賀宴ニ

被為入候。 元之助、京極侯、大養寺近所等に年始相勤申

候。 勘助、小挽町邊に鶴洲侯、鳥羽侯、京極侯なとに年

始ニ參ル。

七日 午 晴 暖シ

見上。 御儀式、如例。 今日、渡邊に塩鮎五ッ遣ス。 昨

夜、築前白鯨少シ遣ス。 尤持。參也。 (ウ)

八日 未 晴 春暖倍常、如三月天。

御三人共御在宿。外無事。

九日申 晴 朝曇、昼前曇、暖倍常。

大人、元之助御同道ニ而、下谷邊、御勤被遊候。大人ハ

下谷武田本行寺地主 藤堂和泉殿 長谷富 元之助ハ鶴洲侯ハ長谷富ニ參ル。雲の上 など少

くし、夫ハ松風之あらたのものしやの御哥の合ノ手より、まつの 行手迄 あしゆらにおそへり申候、扇子箱二本入、藝藏 遣え。 勘助在宿。

深川堀口忠兵衛女中、三本入扇子箱并小鴨二羽持参元年始也。

大人、元之助、夜五ツ半少過ニかへる。十公、青山年

始。

十日酉 晴 朝曇、昼後ハ烈風、終宵不止。

大人、今日松平三郎二郎殿へ讀初ニ被為入候。元御出かけ、年始森川侯、

御帰りにかけに箱 垣侯、夫ハ竹内。 元之助并勘助在宿。

十一日戌 晴 烈風終日不止、又終宵不止故、寒倍常。

大人始、皆々在宿。外無事。

十二日亥 晴 風无シ。夜半過風出、昼、本庄邊出火、
早ク減、夜五ツ時分曇。

大人始、御在宿。白銀叔父、舞岡之叔御出御酒、舞岡

之叔ハ御留宿(オ) 水野帶刀来ル。水野侯大夫、二本松

山海郎、前山雪月歌といふ題ニ而頼呉候由故、参申候由、

御あい有之候。尤、前山雪月歌ハ山海郎座敷ニても作りたる事トミエ二本松山海郎ハ一大夫也。

十三日丑 晴 烈風有り。今日ホンホリとこのへ申候。

大人、濱町ハ深川邊御年始、牧野兵部殿ハ熊藏 公子、彦弥公子。 尤、深川堀口

忠兵衛方ニテ御酒出テ候而夜分四ツ半時分御帰宅。元之

助、勘助、在宿。今日、御痔之気味。

十四日丑 晴 烈風 夜半比止ム。

大人、御在宿二人。尤、今日最初腹痛ニテ臥申候故也。東

隣ニ朝之水三荷汲もらひ申候。源吾方ハ藝州鱒遣ス。

昨日、傳兵衛年始ニ来ル。海苔五枚持参。今晚方、舞岡

之吉右衛門様御留宿。

十五日寅 雪 今昼正午より霰少シ之間、夫ハ雪、
夜五ツ前止。曇斗深更小雨、二度少々火事有。小石川、浅草也。麴町。

今日、御儀式如例。大人、今日、濱町牧野世子御會初之

所、余程之風雪故御断也。元之助 今朝ハ復常申候。吉右

衛門様、今日舞岡へ御帰り被成候。青山ニ使有之間、萱

堂ニ養命糖十三遣ス。今日、左京世子、詩作直し頼ニ来

ル。

十六日 卯

雨

少雨也、餘寒倍常。此節外水切故大雨もよし。(ウ)

大人始御在宿。

田町久留^{久留}當月廿五日會初之義申来ル。

十七日 辰

微雨

昼後^{久留}止ミ、夜ニ入り半ハ晴。

不殘御在宿。白責^{久留}万藏来ル。外無事。松亭^{久留}先達而之

三分一帰ル。

十八日 巳

晴

烈風 夜ニ入りて止ム。暮過、品川邊少し火事。

大人、御牙痛ニ而今日天籟宅^{久留}不被為入候。元之助斗。

今日京極^{久留}来ル廿二日、三人共可參之由、申遣ス。今

日、十公、晝屋^{久留}御中奥六疊、十一とほり之とこあつら

へ申候。一疊ニ付。六疊ニ分也。

十九日 午

晴

大人^{勘助同}麻布廣尾邊御年始御勤被遊候。

藤川^{久留}明後廿

日、青木^{久留}被為入候儀、聞合ニ被遣候。昨日、源吾方

此間藝鱸遣し申候蓋物ニ白魚^{久留}うつりニ参リ申候。

御田侯^{久留}来ル廿四日^{故障ニ付廿三日}

如例之由、申来ル。御留守故元之介返

事。

廿日 未

雪

昼^{久留}雨、夜微雨中、小石川邊出火。

大人、奥殿會始つき肩衣。元之助、勘助在宿。尤、勘助一行。明處會ニ行。

藤川見^{久留}。今日青木侯之斷。

二十一日 申

晴

春暖。夜大つか邊少火事。

御詩會初如例。白銀^{久留}斷来ル。中蓋物^{久留}赤味噌もらひニ

来ル。詩會夜五ッ前済ム。村田小富^{久留}周禮かす。四三

五六七八 儀禮四本返ル。終り迄。合三本。

二十二日 酉

晴

尤、朝薄曇。

今日、白責^{久留}杉之枝取ニ遣ス。序ニ祥雲寺^{久留}提灯返ス。

且、白藻^{久留}香煎一ッ実詣師^{久留}遣ス。大人御始、不殘

京極侯會始ニ而参ル。服紗小袖、裏付上下、如例。

二十三日 戌

晴

春暖倍常、入夜曇ル。二度出火。一度ハ四ッ谷邊也。尤も、青山、今日ニ成申候。上野御參詣、則明日故也。

今日^{久留}青山始ル。尤、元之助、同様ニ参ル。麻上下服紗小袖今日

御休息之方始ル。おなか様則、孝経也。夜八ッ時帰ル。

萱堂^{久留}さらさむめ上ヶ申候。津輕^{久留}目録^{註一尺}来ル。如例年。

二十四日 亥

曇

終日也。入夜同し。六ッ過少火事、遠方ニ

御三人共御在宿。外無事。

二十五日 子 晴

大南風、昼前迄曇ル。夕七ツ過遠火、夜六過目黒邊遠火。

大人、柳侯に年始ニ被為入候。

此頃世子、御乗出。且、俟るニッ笠紋付之上下出ツ。

小モンナンホフ、

夫、濱町牧野世子に被為入候。

麻上下のしめ

夜九ツ半過御帰宅。

元之助、京極世子に参り申

候、如例。

勘助^(ハシ)在宿。

今日、十公、晝表とゝのへ来

ル。

「(ウ三)

二十六日 丑 晴

春暖倍常。今日、昼八ツ半時分、少し地震。夜品川邊少火事。

大人、九鬼侯會初。

闘斗目麻上下。尤當年未年始不被為入候故也。

夫、渡邊侯に被為

入候。

同断。元之助、龍土伊達侯に今日流哉否、聞合

来。弥可参由、申遣ス。

土器町晝屋、此間申付候御與

六疊之とこ出来故、今日来り、寸法取合せとりかゝり申

候。今日、玉味噲きさみ、つきこみ申候。元之助、宇

和世子差懸り故障之由ニ而断来ル。

提灯屋に弓張一ツ

はりかへ、又、新ニ一ツ申付候。ぬし屋もつき物持来

ル。二百十二文

安兵衛来り、泊ル。草津湯治亀田屋すゝめ 四日

市出見世。

源内ト申者之黥瘡之薬金一廻り。是ハ治兵衛すゝめ 兩様

之所如何可仕由聞合、且、ぬのこ一ツねたり申候。大

人、渡邊侯に夜七ツ時御帰。

尤、渡邊侯年始故、のしめ麻上下。難煮とそ濟而、吸物。又、土器にてかん酒。

近習皆麻上下。

二十七日 寅 晴

時、少し曇ル。

大人、今日、青木侯御會初。

御製斗目、麻上下。尤御年始ニ不被為入候故、常御會、初ハ服紗麻上下也。暮ハ裏付上

下也。尤、先様、侯初、近習向、家老不殘同様也。七ツ

前御帰宅。

夫、稻垣世子に被為入候。

是モ同様、今日御會初、御服紗麻上下。先様も麻上下

元之助、築地伊東會初。

服紗麻上下、是又當年年始不行故也。

暮時帰ル。勘

助、金杉邊、三田、關なとゝ白かねに年始ニ参ル。白

鳥平内も杉原之半切二百枚来ル。」「(オ四)

二十八日 卯 曇

餘寒、入夜雨雪、深更も雨斗。

大人、米津侯に御會初ニ被為入候所、御腫物ニ付御断

七ツ時分も久留嶋世子に勘助被為入候。

御會初ニ付服紗小袖、麻上下也。

夜時御帰。

元之助、小幡侯會初。

尤、當年ハ未年始ニ参り不申由候。のしめ、麻上下也。

今日、晝屋来ル。御中奥六枚、其外、臺所二枚うすへ

り。茶の間二十てふとりかへ。おとこへや二疊新ニ入。

てふちんやも張替一ツ、并ニ新

弓はり一ッこしらへ来ル。ハリかへ代百四十人、新指百八十文。

佐倉の佐治武

右衛門殿もま鴨のめん鳥一羽、礼記四(ハ)本返(ミ)三四十迄来ル。

青山表弟共来リ、萱堂に納豆上。

二十九日辰 終日雨 夜ニ入テ晴。星風有リ。五過、新橋邊少火事。九過降ル。

大人、今日、岩村侯御會初。御敷斗目麻上下、公并世子断。外ニ役人向は麻敷斗目。夫も築

地伊東君に御會初、夜五ッ半過御帰宅。本多伊豫殿も少

御咄被申度儀有之ニ付御出可被下由。来ル朔日被仰遣

候。御田侯も此間之詩作取ニ参リ候。大工善治来ル。御

臺所板之間ニ致し申候。且、たはこきり代、持申候。

勘助、稲垣世子今日始リ申候。雷盆新と一のへ申候。

元之助今日大養寺初参。

三十日巳 終日雨 尤、七ッ時分迄大南風雨也。暮頃晴、夜曇。

大人、奥殿も伊達侯に被為入候。尤、當年へ今日始也。夜、九時御帰

宅。元之助、濱町牧野(ハシ)兵部(オ)少輔殿、當年始而

初リ申候。今日約束ニ御座候所、故障之由ニて延引申來

故、終日在宿。勘助、京極世子、如例。

せんへい、星之兵右衛門殿もとて

稲垣之太鼓と一のへ申候寄進類ニ来ル故、五十鈴寄進。大養寺内堂門より銀三文目来ル。

□冬之祝儀也。今日も讀書相はしめ申候。津輕、今

晩約之所、明夕ニ断リ遣ス。神田惣八郎處も易經流卦

八九一本返ル。晝屋も此間之代物取ニ来ル。代金三歩

ト七匁三分。

二月 建辛卯之辰宿女 三日啓蟄 十八日春分

朔日 丙午 終日曇 夜二度少火事、夜曇九ッ時分も余程之風也。

今日も御講釈、論語、絶句拾遺、如例。大人、本多伊豫

侯に御出。暮も御出夜ハッ御帰宅。尤、侯之留守居鈴木五助と申者、

五十之賀ニ付侯も御出故、右ニ付大人ヲ御召被成候也。

元之助、麴町来ル三日ニくりかへ断リ。今夕初而津輕に

参ル。酒吸物出。如例。則是も二七約(ハシ)居候。二日ハタム、七日、廿七日ハ星ノ間、十七日ハ差懸リ

見合。勘助在宿。舞岡之吉右衛門様御出。

二日 丁未 終日曇 少々風有リ。夜ニ入りて浅草并小川町邊火事。

大人、京極世子も青木侯に被為入候。元之助在宿。

勘助同様。白銀叔父御出。外(オ)無事。

三日 戊申 朝雪ちら付、夫も曇斗、夜ニ入而忽晴、忽

曇。遠火少し、二度。

大人、岩村侯も鶴世子、如例。夜五ツ時分御帰宅。元

之助、麴町稻垣世子。尤二日之替り。夫も□人方に参り、夜五

ツ少過帰ル。勘助、小幡侯如例。舞岡之吉右衛門君御

見へ被成候。更紗梅、外も到来之由ニ而持参。尤一曲なり。夕

方又見へ□。十公炙事頼申候。且藤兵衛殿方に書状頼

ミ置被成候。夜提灯借ス。翼日返ル。厩ウシ兮公子も元之

助方に手紙ハシ来ル。略曰。弊庵之詩會、又々相催申候。

當二月十一日宿題、花蹊逢故人、五律、右之通りニ御座

候由也。外ニ書付、如左。

菱亭詩盟十一日

二月 三月 五月 九月 十一月 赤坂三分坂下 山種徳寺中 松溪院

右之通申来ル。

四日 己酉 晴 西南風烈ッ。夜ニ入而風瀟烈ッ。九ツ過少ししつまる。火事遠火一度。

青山如例。来ル九日朝四ツ時迄出席之約束御定メ被遊

候。三礼義疏、礼記之部初メ三冊借用、夜九ツ半時帰

宅。尤元次郎殿おなつとの延引。元之助同道如例。勘助、稻垣世子、如

例、舍人断り。白貫も万蔵来ル。杉六把持来ル。傳兵衛

衛、今日土蔵之普請ニ来ル。始而也。房洲屋も榎二朱

分持来ル。ウ

五日 庚戌 晴 春寒。昼ハシ夜ニて遠火二度。

讀書如例。大人昨夜も御腰痛。今日御平臥。濱町牧

野世子も御断来ル。尤、伯母不幸之由故、断来也。元之助、築地伊東約之處

断来ル。神田に之存し寄之所、少々不快故、終日在宿。

勘助同様。

六日 辛亥 晴 春寒非常。遠火夜一度。

大人、如昨日。元之助、奥殿も伊達、如例。夜五ツ前帰ル。

白銀叔御出。勘助松屋。尤断なり。

七日 壬子 晴 春寒不整。

讀書如例。大人少し御不快。元之助、勘助、子騰、屯

両人之招ニて、昼九ツ時分も驪山邊郊行。目黒之先之善

右衛門と申百姓屋ニて、蕎麦などハシふるまひ名斐なり。夫も吸

物も二ツ、煮物などにてのむ。夜五ツ前帰ル。驪山之少
々前々善右衛門方迄。尤、勻にて、幽、流、遊之字限り
て、一首ツ、出来申候。尤、七絶
なり。

春日同子騰富郷遊驪山同前

芳邸二月樹林幽。把醉溪邊堪枕流。好是騷人謀野処。揮

毫（オ六）欲賦浴沂遊。未考校。

八日 癸丑 晴曇交 夜一度遠火、早滅。此節春寒不禁。

讀書如例。大人、米津世子、如例。赤坂御断。小幡

世子、如例。勘助、鶴世子、如例。

九日 甲寅 朝々昼頃迄雨。少シ雪交ル。昼過々晴。
春寒不堪、遠火一度。

青山如例。夜九ツ時分帰ル。今日朝早クニ相成
先方四時出席之積。勘助、鳥羽

世子、如例。

十日 乙卯 晴

讀書如例。大人、奥段々龍土公、如例。尤、御風氣にて

御聲かれ申候間、夜四ツ前御帰リ。元之助、深川ハ築

地、如例。尤、深川當年今日始而故ッ
き肩衣、夜九ツ前帰ル。勘助（アキマ）

十一日 丙辰 大風雨 夜ニ入而止ム。

御講釈如例。大人、深川築地御断来ル。尤、昨日元之

助承り来ル。御不快ニ付御在宿。元之助、勘助、子騰

同道にて今井谷詩會。暮頃帰ル。

十二日 丁巳 晴 大西風。

讀書如例。大人、京極ハ青木、如例。元之助、麴町

如例。夫ハ野山（ムシ）に寄リ、夫ハ本多千五郎に参ル所、留

守。宮木玄昌に参リ、加美屋にたち寄ル。帰リニ津輕會

讀如例。勘助在宿。今日、良仲に人遣ス所、膏藥三

貝、煎湯（ムシ）二貼来ル。尤、大
服也。

十三日 戊午 晴 此せつ兎角寒シ。

讀書如例。大人、鶴世子、如例。元之助、大養寺に

参ル如例。勘助、小幡侯（ムシ）に如例。鶴侯之大夫、水野仁

右衛門方ハ大鯉一本来ル。外無事。

十四日 己未 雨 昼八ツ時分止ム。夜半ハ大分降ル。

讀書如例。大人、田町世子ハ伯太老侯、如例。夜八ツ
時分御帰宅。元之助、奥殿ハ京極世子、如例。夜六ツ

半時分帰ル。勘助、田丁松尾に至ル。白銀之叔父^(A)

方^(シ)先達而稲野氏頼ミ之聞合セ事^{也。白杉小助之亡妻也。妹之事也。}○當時松平

^{ニ勸メ居ル尤甲斐}申来ル。^{大ひらめつゝまきり之煮}付一きれ、酒煮之大煮

遣^(ハシ)元則、稲野に人遣し、右之事申遣ス。萱堂に葉故鯉

を上ケ申候。白髪昆布来ル。津輕提灯取ニ人来ル。

並ニ左傳被借之所、不遣。留守故也。

十五日 庚申 雨 朝風雨。夕天氣。夜又降ル。^{「(オ七)}

讀書如例。大人、柳侯世子御乗出し之御祝儀ニ被為入、

夫濱町、如例。夜九ツ時分御帰宅。元之助、深川迎

不来故、不参。勘助、麴町稲垣世子、如例。

十六日 辛酉 晴曇 彼岸中日也。

青山休ミ。大人御在宿。元之助、津輕如例。勘助

在宿。原宿お見よ様御出。外無事。長谷川明日

断来。且、岩吉、世子夫人、出産之儀も申来ル。

十七日 壬戌 晴

讀書如例。大人、稲垣世子、如例。元之助、龍土大

養寺、如例。勘助、柳世子悦ビニ行。夫米津世子、

如例。原宿お見よ様、今日高砂町に御出被成。<sup>おすきとの
同道也。</sup>

白銀叔父御出被成候。

十八日 癸亥 曇

讀書如例。大人、赤坂御断来り申候間、御在宿。米津世

子斗七ツ前暮頃御歸り被遊候。元之助、小幡如例。

築地伊東断り、且、先達十四日明解院被頼置候、東海

方丈鉄州和尚之一行物取出し申候所、<sup>尤十四日
之日也</sup>則、今日持

せ来ル。尤今日約束申置候處、御不快之様にて断来ル。

□勘助、^(オ七)鶴世子、如例。此節叔母君、おてい、少

し風氣故、今朝、藤^(ハシ)五積散五貼来ル。白責万蔵

来ル。<sup>尤そ、
し也。</sup>杉之^(ハシ)四把持チ来ル。

十九日 甲子 朝曇、昼過雨。

青山如例。夜九ツ時帰宅。尤、^(ハシ)片羽延引。今日絶句解

之處、右故延引、今日□存候間、昼頃出席之積り之約

束ニ致し置申候。三儀流図解一帙拝借致し来り申候。

祥雲直蔵主見へ申候。尤内用ニ付也。勘助、稲垣如

例。加賀屋にて銀子払、尤五拾六匁九分也。此節南鐐

一斤、錢相場六百八十文。

二十日 乙丑 朝雨、四ツ前も晴 暖シ。

讀書如例。 大人、奥殿より宇和世子、如例。夜九ツ半過

御帰宅。 元之助、深川之所、濱町に始り参り申候ニ付、

断申候所、濱町も御持病之由にて断来ル故、終日在宿。

尤、腹塩梅殊之外悪シ。 勘助、京極世子如例。

琴叔母、今日榊原に御逗留ニ被為入候。 駕輿ハ内海より借り申候尤人ハ二人ニ

て四百五十文。状箱持一人百五十銅。久助添柳原奥に肴一籠上ス。甘鯛二ツ口魚二ツ。出目魚一ツ。尤中也。以上三百五十文。〇四合

百五十文。〇御次に煮肴一重大ひらめ一枚、つゝきり大根、大輪共黒深手重也。〇五十文（オハ）

二十一日 丙寅 晴 春暖倍常。今夕五ツ半時分々四ツ谷大番町。龍寺門前火事。四ツ過迄焼ス。

御講釈如例。 御詩會如例。 今朝、下谷武田三右衛門

殿、年始に見へ申候。 雑煮・吸物・御酒仕度、出シ申候。

本多千五郎年始に来ル。 御酒而已出ス。 白銀叔御出被

遊（ムシ）。 嵩山房見へ申候。 唐詩選序之事に付来ル。 参沼

豊後之干鯨五連持来ル。 大人、青木侯に今夕被為入

候。 夜四ツ半に御帰宅。

二十二日 丁卯

晴

暖也。朝寒也。昼七ツ時分は北風烈シ。夜、増上寺方丈、臺所の火事出ツ。早ク滅ヌ。夜、四ツ二分頃、裏の二郎兵衛方へ盗入り、東隣此方等におへれ参り申候由、しらせ申候故、其騒々竟に不口（ムシ）。

讀書如例。 大人、京極世子。

元之助、麴町之

所、他出之由にて延引成。 右故津輕、本多而已に至ル。

勘助、米津世子斗。 今朝、久平帰リ申候。尤一昨日米ル。

二十三日 戊辰 晴 昼迄風、夫より止み春暖也。

讀書如例。 大人、岩村侯に鶴世子、如例。 太々母君御

始、裏も不残、広尾郊遊、白賁（ムシ）にも被為入候。 御留守は

十公、元之助、兩人也。 元之助、昼之内大養寺、如

例。 勘助、小幡侯如例。 原宿之藤藏殿見へ申候。尤お見よ様御迎之

心也。

二十四日 己巳 曇、夕も晴。

青山如例。尤片羽宅にて元之助絶句解講釈相始申候。 夜九ツ過御帰宅。 勘助、鳥

羽世子断り、（ムシ）右故松屋に至断リ。（ウハ）

二十五日 庚午 晴 春暖倍常、美日。

讀書例也。 大人、田町断故、濱町斗被為入、夜七ツ時

御帰。 元之助、深川より迎来。 然ル所築地（ムシ）伊東君、利休

遠忌執行達而可参由。此間二度迄使來。尤、利休息は當月廿八日之由也。 参りかけ^ニ参^ハ

申候積り之所、段々申被聞、可断由故、右迎之者ニ手

紙添、深川断申候也。〔奥〕の蕃椒 大人より被進候。 夕帰宅之積り之所、

夜九ツ過、罷帰申候。大人に菓子来ル。勘助在宿。原

宿之にお見よ様等、今日高砂町より此元迄御帰り、昼時分

直ニ御帰り被成候。尤^ハ泊^ル也。

二十六日 辛未 曇、昼より雨、夕より大雨、夜も同様大雨、

曉迄降ル。大雨也。

讀書如例。大人、九鬼侯より渡邊、如例。夜八ツ時、御帰^リ被遊候。 元

之助、奥殿侯に参り申候所、腹瀉之由にて断り故、伊達

世子、如例。尤、公之方に噂有之候所、其儀無之、菓子

而已出テ申候。夫故暮前帰り申候。勘助在宿。祥雲

寺春首座、証券一通持参にて見へ申候。尤、此間世話致し申候故也。

二十七日 壬申 晴 美日也。

讀書如例。大人、麴町延引申来ル。黒田侯御帰國之御

暇ニ被為人、夫より赤坂公子、此^{〔奥〕}痘故、御見舞ニ被為

入、夜、青木侯に被為入候。元之助、津輕より大養寺、

如例。勘助、関左仲太殿に参ル。尤、米津世子断故也。」

〔オ〕今日、居風爐たつ。柳原より御使来ル。二日迎之義

申来ル。

二十八日 癸酉 曇或晴、或曇、夜ニ入而激雨、深川邊遠火。

讀書如例。大人、赤坂御休也。米津世子も御断申来

ル。終日御在宿。元之助、小幡侯断来故、京極侯斗、

夜六ツ時帰ル。勘助、鶴世子如例。今日、雛奉座。

二十九日 甲戌 曇晴 朝より急進曇。昼より晴、夜ニ入而雨微雨也。 遠火二度。

大人、奥殿侯不快ニ而断申来ル。伊達侯如例。夜九ツ

御帰宅。元之助、深川如例。夫より濱町牧野世子に始而

参ル。夜四ツ時帰ル。礼記世説之譚 秋稻始申候。 勘助、稲垣世子、如例。

三月大 建壬辰之辰宿直虚 五日清明 十六日月食七分半 子ノ五刻、寅ノ一刻ニ覺ル 廿日穀雨

朔日 乙亥 曇 時々微雨、地震少しゆル。夜五ツ半時也。

御講釈如例。大人、大養寺に礼記之御講釈ニ被為入候。

元之助在宿。勘助、京極世子、如例。今日、雛之餅

擣。大養寺の花到来。提灯ニツ
かへす。

二日 丙子 雨 屋後晴、暮時大風雨、五ツ前風斗非常之風也。
夜半比止。ハツ時又大風吹て朝やむ。

讀書如例。大人、京極世子、小幡侯。世子斗 夜九ツ時御

歸り。元之助、麴町（ハシ）
（ウ） 本多。夜大風

雨故、津輕に不参。勘助、米津世子断故、白銀叔宅に

参ル。今日、お雛一对とゝのへ申候。一分と六匁六分。

三日 丁丑 晴 春暖也。永田馬場邊少シ火事。

御儀式桃花如例。大人、長谷川侯に被為入。夜九ツ過
御歸宅。

元之助、勘助共、在宿。

四日 戊寅 晴。

青山如例。元之助
□ニ同シ。 勘助、麴町如例。

五日 己卯 晴 少シ風有り。

讀書。大人、田町御断申来ル。濱町斗。元之助、深

川如例。勘助在宿。

六日 庚辰 雨

讀書。大人、九鬼、渡邊老侯、如例。夜ハツ少過くら
ひ御歸り被遊候。元之助、奥殿、未不快之由にて断申

来ル。龍戸故障之由にて断申来ル故、大養寺斗に参ル。

勘助、柳世子に参ル所御断也。

七日 辛巳 晴 （一〇）
（オ）

讀書。大人、田町、朝岩村侯如例
尤五日之替日也。 元之助、長谷川公、如

例。尤當年今
日始也。 勘助在宿米津
断也。 外無事。

八日 壬午 晴

讀書。大人、龍土斗。元之助、小幡、京極世子、如

例。勘助、鶴世子、如例。

九日 癸未 晴 風有り、夜四ツ少前、少地震。

讀書。大人、御在宿。元之助、深川、濱町、如例。

夜九ツ過ニ歸ル。勘助、麴町如例。外無事。今日、

神田に人遣ス。白銀ととけ申候、金百疋遣ス。
并ニ醫物遣ス。尤柳原にも人遣ス。

十日 甲申 雨

讀書休。大人、元之助、青山如例。勘助在宿。

十一日 乙酉 晴

御講釈、如例。大人、稻垣世子、如例。元之助、龍戸
宇和侯。尤六日之
替也。 勘助、（ハシ）
□□院之詩會、如例。

十二日 丙戌

晴

余程ノ風夕雷初發声よほと。大雨滂沱、夜入晴曇交^(シ)ル。又、大風終宵不止。小火一度。一(ウ)

讀書。

大人、深川如例。尤、京極世子御断被遊候。

元之助、麴町如例。本多、津輕如例。<sup>尤舎人方^(シ)も
たち寄り申候。</sup>勘

助、米津侯^{御断也。}柳世子^{これへ}。夫^{御断也。}大養寺如例。尤、^{今日^(シ)漢書始申候。}

十三日 丁亥 晴 風有り。

讀書如例。大人、鶴世子如例。元之助在宿。少シ風

邪也。勘助、小幡侯、如例。村田小富、明日帰郷故、

周礼返ス。九十、十一之十三、廿四廿五、廿六廿七、

^(ハシ)
四本^(ハシ)

十四日 戊子 晴 今曉雨電。

讀書例。大人、田町^{伯太老侯。}勘助、田町^{松屋}

に至ル。元之助、今日風邪ニテ平臥、右故、奥殿相

断、十七日ニ申遣ス。嶋野見ニ。

蓮光院様御逝去ニ付、今日迄なり物停止。^{尤七日之問也。}

十五日 己丑 晴

讀書如例。大人、濱町如例。元之助、深川延引。尤

風氣ニ付幸故^(ハシ)平臥。勘助、麴町如例。一(オ)

十六日 庚寅

晴

大人、青山御客有之ニ付、御會無之、右御客ニ付御出被

遊候。元之助、^(ハシ)今日出勤、大養寺^(ハシ)参リ申候。勘

助、白賁^(ハシ)巡見。大人御帰、翼曉六ツ時。

十七日 申卯 晴

讀書如例。大人、稻垣御延引被仰遣候。元之助、奥

殿^{宇和侯如例。}勘助在宿。

十八日 壬辰 晴

讀書如例。大人、米津御断参リ申候故、御在宿。元之

助、小幡侯^{京極世子如例。}勘助、鶴世子御断参リ在

宿。

十九日 癸巳 晴曇、夜ニ入リ降ル。

大人、元之助、青山伺。尤白銀叔父毎日御出被成候。勘助、

麴町如例。今日白賁^(ハシ)申候トテ大竹一本持来リ申候。

二十日 甲午 晴

讀書如例。大人、御田侯^{奥殿、宇和侯、如例。}夜八

ツ時分御帰^(ハシ)。元之助、深川^{濱町如例。}勘助

在宿。今日太々母君御始、不殘大養寺御花見物。

二十一日 乙未 晴

御講釈如例。詩會如例。尤、子騰別筵故、則子騰主人也。鯉持参。即、題、春風又花心會友五七律七絶宿題、草店雨行。

今宵、原宿之物兵衛殿(アシ)おさ野との見へ申候。

二十二日 丙申 晴

讀書如例。大人、深川(ハシ)に被為入候。尤、今日は青山之四人倉西松二郎 高田巖助 江村知一郎 池上孝之助先達而、白責(ハシ)に参度由、則今日

相催申候。酒肴、吸物等、此方(ハシ)持参。大人、深川(ハシ)より被為入候而、夜分之京極世子御約束之所、御断被遊

候。元之助、勘助、同様白責(ハシ)に参申候、尤、子騰、訓郷也(ハシ)此兩人と参り申候。(ア)御よひ被遊候也。」

二十三 日 丁酉 晴

讀書如例。大人、岩村侯(ハシ)鶴世子、如例。元之助、

稲垣世子如例。尤昨日之替也津輕延引申来ル。勘助、午山宇世

龍、筑田十郎右衛門(ハシ)と申書家、母之七十寿ニ付、浅草梅園院

廿七日 辛丑 晴 雨南風。

ニて書會寿筵相催申候ニ付、三人共参り呉候様と此間見へ頼ミ申候所、大人始御用有之、御断、勘助斗参ル。

尤、大人寿詩被遣候。勘助、夫(ハシ)下谷へ参り申候。(夜

九ツ時帰ル。

二十四日 戊戌 晴 春暖如夏。

大人、元之助、青山如例。夜九ツ半時帰ル。勘助、稲

垣世子、如例。尤倉人断之由也白銀之叔父見へ申候。祥雲実

詣見へ申候。

廿五日 己亥 大南風 夜半後(ハシ)雨。

讀書如例。大人、田町(ハシ)勘助濱町如例。夜八ツ時分御

帰宅。元之助、深川如例。夫(ハシ)柳世子如例。尤、参りかけに世子御祝儀ニ参り、両方は祝儀、帰路素就ニより申候。夜五ツ過かへる。

廿六日 庚子 曇雨 夕(ハシ)晴、朝雨、星(ハシ)好南風。

讀書如例。大人、終日御在宿。(ハシ)明七日遷町御帰リ被為入候。

元之助、奥殿(ハシ)罷帰申候。尤字和侯御断参り申候故夫在宿。勘助、

鳥居坂如例。

廿七日 辛丑 晴 雨南風。

— 80 —

讀書如例。大人、麴町^{ムカトウ}伯太老侯に被為入候。元之

助、津輕^{ツノエ}大養寺如例。勘助、小幡侯^{コハタ}如例。今

日、原宿のおき野との、お虎との同道^{ドウダウ}ニ而國元^{クニノタラシ}に被帰候

よしニ而^{アシ}被寄申候。尤先達^{ウツラダテ}而お見よ様ニ御約束いた

し置申候、はなかミ袋出来故、とくけおく也。

廿八日 壬寅 時曇、時雨、夜ニ入而雨斗。

讀書如例。大人、朝京極世子、如例。米津公子御出被

遊候所、断也。元之助、小幡侯^{コハタ}京極世子如例。勘

助、鶴世子、如例。大人、今夕青木侯如例。

廿九日 癸卯 晴 少シ曇

大人御始、不残在宿。池上^{イケノエ}手紙、詩作来ル。元之助

次解。酒熟山村隔賞心。偏憐風雨減春深。如何難逐袈裟

去。空愧鶯歌報好^{アヒ}□。

晦日 甲辰 晴 夜ニ入而少之間風雨同様。

讀書如例。大人、奥殿^{おくどの}宇和侯如例。夜九ツ少過御帰

宅。元之助、深川^{フカガハ}濱町如例。^{尤、深川今日孟子始ル。}帰路、駕輿

ニ而帰^{カヘ}り申候。勘助、麴町如例。

四月小 建癸己之月宿直危 五日立夏 廿日小満

朔日 乙巳 晴

御講釈如例。大人、深川公子如例。^{夜五ツ時分御帰。}元之助、

在宿。勘助、柳世子如例。夫^レ大養寺如例。舞岡之

吉右衛門様御出被成、今夕御留宿。

二日 丙午 雨

讀書如例。大人、御在宿。元之助、麴町^{ムカトウ}昼比^{ヒルヒ}用

事有之ニ付早ク参り呉候様申来候處、遅く相成申候間、

来ル七日申遣ス。^{尤、六日晴日ニ候へは不参概。}大人、御在宿と存し候所、

京極世子^{キョウキョク}青木侯^{アヲキ}に被為入候。舞岡之先生御留宿。

勘助、米津世子、如例。

三日 丁未 晴

讀書如例。大人、岩村侯御断申来ル故、鶴世子如例。

夜六ツ時分御帰。元之助、大養寺^{オホニキ}に参り申候。勘

助、小幡侯如例。^{尤、六日天氣相ニ寄り池上ニ参}今朝、舞岡^{マシ}

先生^{ウシ}帰郷被成候。

四日 戊申 朝曇、昼後八ツ過^{カヘ}雨、終宵不止。

青山ヲ断来ル。尤、九日も同様ニ断られ申来ル。

勘助、鳥羽世子如例。

七日 辛亥 晴

「(一四)

大人并ニ元之助在宿。今日、市橋侯御頼之竹之詩二首
大人并
元之助
青山ヲ為持遣申候。序ニ菅室はしみ、あらひ、きすにつけ上ケ申候。一定 尤、今日原宿

つやは早く召置申候。

五日 己酉 時晴、時曇。

讀書如例。大人、田町延引ニ付、濱町ニ被為入候、如

例。御掃宅夜。元之助在宿。深川と通不來故。 勘助、松屋ニ参

ル。尤、木曾にも参り候。 今日、安祥寺之仁勅師、明日池上邊ニ被

為入候ニ付、御迎ニ見ニ申候。

六日 庚戌 朝晴、昼時比ヲ雨、夜半ヲ余程ふる。今朝五

ッ時少シ地震致ス。

讀書休。大人御始、并に子騰御同道ニテ池上邊玉井藤

左衛門方ニ被為入候。初、藤左衛門方ニテ吸物、酒出、

夫ヲ安祥寺ニ被為入候。夫ヲ藤左衛門親類門田ツキヤツ庄藏方

ニ被為入候。庄藏、門之助、艇ニテ王川ニ浮ミ申候。

「フキヤツ」

朝五ツキヤツッ時御出、先ニ四ッ半後ニ御着。帰

路、夜四ッ半時、先方日暮提灯ニ而かへる。

讀書如例。尤、昨日奥殿、龍戸ヲ断り申候ニ付、今日両

方共、如例。夕七ッ半少過ニ罷帰ル。尤、元之助也。大

人、終日御在宿。勘助、京極世子、且、米津公子ヲ長

谷川君ニ参ル。白銀叔ヲ帰リ送、子騰之作来ル。

帰鴻奮融入遙空。無那離群赤水東。江路堪思明日夜。關

山孤負落花紅。哀鳴愁聽浮雲外。遠影羅留返照中。返當作斜尖。

君去武城春寂々。重傳錦字寄秋風。

八日 壬子 曇 黄昏之間少シ風雨、忽止ム。時止。夜初更時分ニ曇斗。

讀書如例。大人、終日御在宿。元之助、小幡侯之所、

昼九ッ少過迄見合せ申候所、九ッ半時分参り申候ニ付不

参。京極世子如例。夜五ッ過かへる。尤、小幡侯朝四ッ時之約束也。 勘助、

鶴世子ヲ御断参ルニ付在宿。今日釈尊誕生日ニ付御奥不

残増上寺参詣。青山之子供見ユ。食事致かへり申候。

今日、団子、らんの葉もち出来申候。青山ニ少し蘭之葉

餅遣ス。式か 須原屋長兵衛、大工規矩尺集ヲ申候三冊物持

参ル。尤、是此間、勘助外ニ尺式手鑑と申書たのまれ申候ニ付、遣候所ニ様成物持参、宮社佛斗之作方ヲ認申候也。

九日 癸丑 晴 寒シ。此節所盜警。

青山休。大人并元之助、在宿。勘助、鳥羽世子如例。

石原管治見ニ。風(ムシ)「(ウ)」持參。尤、此間帰郷致

シ申候由也。

十日 甲寅 時晴、時曇。

讀書如例。大人、龍土より御断申来。尤、御疝積ニ付奥殿

御断被遊候。元之助、深川間違ニ而迎者不參故、直ニ

はま町に行。濱世子斗、如例。夜ハッ時少 勘助在宿。満口權

(ムシ) 産一俵ト扇子一箱来、三本入。

十一日 乙卯 晴 蒸

御講釈如例。此下御断被遊候迄、十二日之部ニ可入者也 大人、深川公子に御約ニ付御迎參り申候

所、此節藝侯縮景園、二(ムシ)勝。赤坂之世子を御額、○此一行可入十 右之御考御

清書等故御断被成候。元之助、柳世子より築地伊東君、

如例。夜ハッ時 大人、今日麴町鳥羽世子御断申来。勘

助

十二日 丙辰 曇 夕より時々雨、蒸。

讀書如例。旦那様、深川如前。元之助様、稲垣侯、

如例。夫より本多に被為入候。勘助様

今日、加藤左源二、十五日國元に帰郷故、御暇乞ニ

来ル。御酒出。溝口権蔵相見へ申候。

十三日 丁巳 曇雨

讀書如例。大人、岩村侯より鶴世子、如例。夜六ツ半時分御

元之助終日在宿。尤子騰(一五)之作かんかえ申送別(オ)候ニ付て也 勘助、小幡

侯如例。瀧村常二郎見へ申候。尤、論語集覽十四より十

六迄合て三本持參致申候。これハ此間此方より借進ス所 詩經説約初一

本返ル。次本同一本末留り在由也 酒出而白銀より子騰送別之作来ル。翼朝

申候。白賁、喜右衛門掃除、もみたいこん持来ル。

十四日 戊午 朝少雨、四ツ時分曇斗。夕前晴、入夜亦

曇。

讀書如例。大人、京極世子より伯太老侯、如例。七夜

元之助、奥殿如例。勘助在宿。尤、子騰方は暇○序ニ

ッ時御 白銀より細川侯御着之聞合ニ人遣

候。財津屯、平松三藏両人、今日より漢書之會始而來。

尤、財津ハ用事ニて見へ申候。

十五日 癸未 曇

讀書如例。大人、今日細川侯御着之由故、今朝(フキヤ)

御祝ニ被為入候。元之助、深川之處、迎不来故、不

参。勘助、鳥羽世子、如例。

十六日 庚申 雨

青山大人并元之助、如例。此節盜警ニ付藩中杯も断。

夜四ツ過ニ罷帰候。勘助、稻垣侯如例。

十七日 辛酉 雨 大雨也、早朝(アジ)夜(アシ)□□不止。

└(ウ一五)

讀書如例。大人、鳥羽世子御断来ル故、青木侯に可

被為入由被仰置候處、

(アシ)

尤此方にも用事有之、且大雨故御苦勞也。

元之助、

長谷川侯に可参候所、大養寺に叔母君おみな参候ニ付、

右故同道ニ而大養寺に(アキヤ)

神祖拝参仕、夫と存し候

所、遅刻之上、且、大雨ニて大養寺門前杯出水故、断

申遣ス。且、ふた物おくりかへす。此間かへりにかり来候小ふた物神祖御文御かし申上候。

勘助、米津世子

に参候所、断り也。翼十八日、大人御出被遊候、御

日限、是又断也。大養寺も今朝 神祖御供赤飯来ル。

尤此方も参申候所、御初穂銀三銭。

財津屯、漢書ニ来ル。始而也。元之助、

今朝龍土も断来ル。

十八日 壬戌 晴

讀書如例。大人、青木侯斗に被為入候。元之助、小

幡侯例日之處、迎之者延引故、勘助ヲ頼ミ遣ス。京極世

子斗参ル。夜四ツ前帰ル。勘助、鶴世子断来ル。

十九日 癸亥

青山如例。勘助、麴町如例。

└(オ一六)

二十日 甲子 晴

讀書如例。大人、龍土も御断来ル故、奥殿御断被遊

候。元之助、深川も濱町如例。勘助

(フキヤ)

此節夜分

甚弥物念也。京極侯發駕明日故、悦ひニ元、勘参ル。

二十一日 乙丑 曇 昼前も晴

今早朝、宇和少将侯御發駕故、大人、元之助兩人参ル。

五ツ時比ニ参り申候所、御門前にて漸謁ス斗也。御講

釈如例。詩盟會如例。青木侯被仰遣候所、延引申来

ル。

二十二日 丙寅 曇 夕も雨

讀書如例。大人、深川^も御断来。京極侯如例。元之

助、麴町^も本多、如例。尤、此節は夜行ヲ禁するくらひ

故早クかへる。勘助^(アキマ) 青山萱堂御出被成候。

おたみ婆々下谷^に被參候。

二十三日 丁卯 雨

讀書例之通。大人、加治橋^(マ) 鶴世子、如例。元之助在

宿。勘助、小幡侯如例。
^(ウー六)

二十四日 戊辰 雨曇

青山如例。勘助、鳥羽如例。

二十五日 己巳 晴タリ、曇タリ、雨タリ。

讀書如例。大人、濱町^も御断来ル。久留嶋侯も延引、御

在宿。^{青木^に被為入候也。}元之助、深川如例。帰り築地^に寄り申

候所、此節夜分人出し候事禁する節故、断。早ク帰ル。

今日、深川^{ニテ}萱堂^(マ) 栄光院様^も手品出ツ。并ニ古事

談六冊、續古事談六冊、絵本古事談十冊、以上三部借用

致来ル。

二十六日 庚午 曇、時々凝雨。

讀書如例。大人、渡邊侯斗如例。元之助、奥殿、伊達
侯、如例。勘助、京極世子如例。

二十七日 辛未 雨

讀書如例。大人、麴町如例。^{御駕籠也。}元之助在宿。勘

助^(アキマ)

二十八日 壬申 雨

讀書如例。大人、米津^(アキマ) 元之助、小幡侯

斗、京極断ル。勘助、鶴^(オ)世子如例。

二十九日 癸酉 雨 七ツ後^も晴。

大人、元之助終日在宿。勘助、鳥羽世子如例。今日

ハ^宵より御帰り被成候。

晦日 甲戌 晴

讀書如例。大人、奥殿^も伊達侯如例。元之助、深川、

濱町兩方断リ也。勘助^(アキマ)

小五月 甲午之月 宿直室 六日芒種 廿一日夏至

朔日 乙亥 晴 御講釈如例。伊達侯^に大人、元之助兩

人共参ル。

此ハ少將御在府之時分、臥遊亭ニ御招可被成之所、雨天、彼是其内御發駕故、其約ヲ大膳世子御果し被成候なり。世子、奥様御同道ニ

て、元之助始而謁スル也。

勘助

(ツキヤ)

二日 丙子 晴 讀書如例。

大人、深川如例。夫、柳侯ニ被為入候。御帰り御駕輿

也。元之助、麴町如例。本多をハ断ル。勘助、大養

寺。白銀叔父相談ありとて御出被遊候。

三日 丁丑 晴

讀書如例。大人、岩村、鶴世子如例。元之助、大養

寺。勘助、小幡侯「(ウニ)」如例。

四日 戊寅 曇雨

青山如例。帰路晴、かへると又少雨。勘助、鳥羽世子

如例。

五日 己卯 雨 夕、晴。

佳節之御祝儀、如例。

六日 庚辰 雨 夕少之間晴

讀書如例。大人、青木侯、渡邊老侯、如例。勘助、

京極世子如例。元之助、奥殿、龍土共ニ断来ル。今

日、居風呂たつ。葛蒲湯也。

七日 辛酉 晴

讀書如例。大人、大養寺ニ被為入、夫、渡邊又藏此間

引移之祝儀ニ御出被遊、夜五半比御帰り被遊候。元之

助、築地、断来ル故、在宿。勘助、柳世子、米津世

子、如例。

八日 壬午 曇 入梅

讀書如例。大人、米津世子如例。元之助、小幡世子、

京極世子、如例。勘助、鶴世子、断来、東海寺ニ参

詣。尤、六月之法事之儀も申談ス。今日留守ニ白銀、明日中ニ金子之儀申

来ル。

九日 癸未 曇

青山如例。勘助、麴町如例。青山ニ而今日御休息之御

講釈後御酒出、大御酔被遊、夜半後七ツ時罷帰。夫、及

暁申候。

十日 甲申 曇

讀書如例。大人、奥殿斗り、龍土、断来ル。元之

助、深川、濱町如例。夜九ツ過罷帰ル。勘助、松屋に参ル。

十一日 乙酉 曇 入梅ニ入而曇斗。今日迄雨なし。

御講釈如例。大人、鳥羽世子如例。夜四ツ時御帰り被遊候。九ツ打つて詩會、勘助斗参ル。元之助不参、在宿致し申候。

十二日 丙戌 曇、昼ハ晴。

讀書如例。大人、深川断ニ付京極斗世子如例。元之

助、麴町如例。本多如例。歴朝詠物詩選かり来ル。尤四本也。

勘助、米津ハ大養寺如例。仁勅、竹筍を五本持参ル。

あまりふとくもなし。青山本如院稲野之実母小祥忌明日故、丸山かるやき

一箱被遣候。

十三日 丁亥 曇、夕ハ雨。

讀書如例。大人、鶴世子如例。九ツ時御出、夜四ツ時

分御帰。尤、鶴侯御連被遊候故通候。元之助、終日在宿。勘助、京極

世子ハ小幡侯世子、如例。尤、小幡世子風邪故岩吉殿斗之由。勘助、京極世

子今日ハ例月三ノ日ニいたす。尤、先ハたのミ申候也。青山ハ昨日か

るやき遣し候志しとて吉野餅(ウハ)一重来ル。青山久保町大小屋也。かず九今日白銀ハ通鑑二本返ル。六、七ノ卷也。十三卷ハ十七迄五冊とりかへかし遣ス。今日此方ハ白銀ハ人遣ス。

竹筍二本、吉野餅蓋物ニ入一重遣ス。

十四日 戊子 晴曇 朝五ツ時少地震

讀書如例。大人、今日山崎侯御病氣御快氣故、今日ハ又、

被為入候。元之助、伊達侯如例。尤、奥殿ハ迎人不来

故、不参。宇和侯ハ参りかけ、此間袖留之祝儀ニ寄り申

候処、六日も断、余りのび／＼之由ニて詩経素讀少シ斗

致ス。勘助在宿。

十五日 己丑 曇、昼之間少雨、夜時ハ少雨、夜九ツ時好

大風雨、神行、雷少シ鳴ル。

讀書如例。大人、濱町御積氣ニ被為入、御断被仰遣

候。尤、十八日替日仰被遣候所、故障有之由ニて断来

返事ニ申来也。元之助、深川延引。柳世子ハ大養寺如例。

勘助、鳥羽世子如例。舍人断、野正ハ寄ル所、國元之和

加米洗わかめといふ由投来致候。

十六日 庚寅 曇、夜ニ入而時々凝雨。

青山如例。夜九ッ過帰ル。勘助、松屋も大養寺如例。

九鬼侯も明日之御断申来ル。今夕、原宿之七右衛門殿

見へ申候。尤、三吉生を同道。

十七日 辛卯 雨

讀書如例。大人、九鬼侯尤、當夏御參府後、今日始而也。御断。明後十

九日ニ相成申候。夕も渡邊侯如例。（一九）夜八ッ少過御

帰宅。元之助、長谷川侯如例。尤、長谷川侯御持病氣故、夜四ッ時帰ル。勘助、

米津世子如例。今日、七右衛門殿三吉殿 同道一旦返留。

十八日 壬辰 雨 夏至

讀書如例。大人、米津世子も御断来ル故、終日御在

宿。元之助、小幡侯断、替日明日ニ致し遣ス。京極

世子如例。勘助、鶴世子如例。今日、七右衛門殿高

砂町に参ル。実詣師丈見へ申候。京師同宗門之疊栄方

も之書之返簡添削頼ミ見へ申候。酒出ス。京師之加多

布持参。

十九日 癸巳 時々雨、大低へ曇ル斗、尤今朝好大ミの風雨

埋路

青山延引。大人、九鬼侯御駕與参ル。昼前四ッ時被為入、七ッ

過御帰宅。尤御參府後、今日始而故御酒等出ル也。元之助、小幡世子如例。勘助、

鳥羽世子断、終日在宿。山崎侯も竹筍来ル。大一本、小四本、合五本、當年拂底之

久留嶋侯も手紙来。信濃守様御病死しらせ也。

以手紙……。然は、信濃守義、於伏見表先月中も中症ニ

而病氣之處、差重り之由申越候。早々帶刀義為看病、一

昨日御當地被致發足候處、同夜川崎驛ニ而致死去候、以

飛脚到来ニ付、□□。同處も昨日帰府被致候。云々。

○以上之通り、尤、十三日之日取之由也。（一九）

二十日 甲午 晴

讀書如例。大人、奥殿も字和侯如例。（小嶋小四郎と

頼之畫（レ）本之句見出し遣ス。）元之助、深川も濱町如例。夜

五更前ニ帰ル。勘助、柳世子如例。琴叔母、今日御

風氣。且、少シ食滞之塩梅。

二十一日 乙未 朝曇、昼も雨、夏至。

御講釈如例。詩會如例。実詣師見へ申候。筈五本持

参。余程大也。白鳥に提灯、風呂敷一ツ、借シ遣ス。青木

侯可被為入、被仰遣候所、御風邪ニ付、又々御断被仰遣候。

二十二日 丙申 雨

讀書如例。大人、深川御断来ル。然シ昨日御風邪

氣、今日御平臥。元之助、鳥羽世子如例。勘助、柳世

子如例。外無事。琴叔母君、昨日御藥三貼ツ、始ル。

二十三日 丁酉 昼迄雨、昼後晴。

讀書如例。大人、岩村侯御断ニて鶴世子斗、如例。

元之助在宿。勘助、京極世子小幡世子如例。帰路、

白賁にまいり、竹筍を見物ス。末三本出申候由。

二十四日 戊戌 晴、蒸暑不勝。夜半後時雨降ル。尤、帰路也。

青山如例。夜八ツ時帰ル。勘助、鳥羽世子如例。琴

叔母君之御藥、今日香(二〇)蕪散。尤、藤川氏也。漸、御快氣也。

二十五日 己亥 雨

讀書如例。大人、山崎侯如例。夫濱町に可被為入

候處、大雨、且少々雷抔致シ申候間、不被為入候。元

之助在宿。此節小々頭痛等候て難儀。就て引込に候。勘助在宿。今日、原宿高

易七右衛門殿、高砂町爰元迄見へ申候。

二十六日 庚子 晴 時曇、時雨。

讀書如例。大人、九鬼侯に渡邊老侯如例。尤、八ツ半過比御帰宅。元

之助、奥殿如例。宇和世子御不快之由ニて御断申来候

故、夫在宿。勘助在宿。原宿三吉殿風邪ニて大分

熱氣等出、不食ニ有之故、休格に申遣シ候所、深川邊に

参ル由、又夕ニ遣し申候所、藥斗来ル。明朝可来由也。尤、二服来ル處、粟朝一ふくかへす。今夕一服用。

二十七日 辛丑 晴 時曇、微雨時交。

讀書如例。大人、鳥羽世子長谷川如例。尤、夜九ツ時御帰宅、且戴柑子

五六本御所望御持参御歸り被遊候。一元之助不快ニ付津輕断、言君ノ庭林橋上、おみやけ御持参被遊候。

終日在宿。原宿之二子淹滯。今朝、休格見舞来ル。

琴叔母君御快癒ニ付、今日御藥御断。勘助、米津世子

が松屋、如例。○今日、白賁が比間かし遣候ちやう灯一ツ、

風呂敷帰ル。「(二〇)

二十八日 壬寅 晴 時曇、時微交濤 ○今朝、伯德見へ今

井谷先生之命にて来ル。□□一二之合二本、説緯二本帰ル。礼

ノ二本、書ノ一、易三四二本合四本又借ス。○今日、下谷女

子出生、名ハ竹ト云。

讀書如例。 大人、米津世子ヲ岩村侯、如例。尤、加治橋ハ去ル廿三日之

御替也。 元之助、小幡世子、京極世子、如例。夜四ツ時 歸ル。 勘

助、柳世子ヲ鶴世子如例。 原宿之二子滞留。尤、三吉殿大低快氣故、乘

断ル。一昨日一服、昨日二服、合テ三貼也。 白賁之万藏来ル。尤、掃除也。 庭之面ニ竹筍

之由にて四本持チ来ル。 正月分之泉川之神楽錢五十銅、

名主ヲ申来リ候故、遣シ申候。 今日、大人御帰リか

けニ、堀田侯藩臣、向加右衛門方ニ御たち寄り被遊候。

是ハ佐治茂右衛門親類にて、字ハ伯熊と云。酒出ツ。 詩作一首遣シ被遊候。

二十九日 癸卯 雨 好南風 あらしの氣味也。 今朝五ツ半時分余程之

地震也。 昼比ト時曇時雨。 蒸暑。

大人、奥殿ヲ宇和世子、如例。 元之助、深川ヲ濱町之

所、深川断、濱町迎来ル。 夜九ツ半過罷帰ル。 勘助、鳥羽

世子如例。 今朝、原宿七右衛門殿、被帰申候。 宇和

世子ヲ大人方ニ御断来ル。 白銀ヲ使来、通鑑横口にて

十五、十六、十七、合而三本帰ル。 次卷二本不見故、二

十、二十一と式冊かし遣ス。 但シ此間、長兵衛方ヲ取寄

申候、小学二部、孝經一本遣ス。 金杉、梅本玄静老見

申候。 琴叔母君之御藥、五貼調合致し置被帰候。尤、さしたる

事無之候ハ、藤川之薬御休ミ被成候後□□服合悪敷故也。時候ニ中リ被遊候由也。 外ニ安兵衛藥五貼、是又

調合被致候。 今夕、大人、青木侯ニ被為人、九ツ少シ

前御帰宅。 (二二)

大月 建乙未月 宿直壁 七日小暑 廿二日大暑

朔日 甲辰 晴 炎暑、東風にて漸凌。 夜半少遠火、西渋谷

邊、早滅。

例講如常。 佳辰如例。 殿君、山崎侯會業適如常。

元雅、大養寺、津輕業適、如常。先是津輕大夫人亡後、自今日如初。 勘助終日

在内。 僕久平取米、於森川藩、京僧清六如常。一俵也。四斗二升入。

頃日冷暖交濤、今日始覺不堪暑。 ○下谷、武田氏使来、

一昨廿八日、妻室平産弄瓦之喜、母子強健也。云且、

安胎散酒寄其德家法也料、南鐐一片来。○十太生、至白銀為談

一。太祖三十三回忌、祖大機院二十五回忌也。白金叔為成、附祭

也。○大人、山崎藩清衛守因招享、至夜三更半後而醉帰

也。

二日 乙巳 晴 夜同時曇、時晴。夜半遠火、早滅ス。

朝稽如例。家君、深川公子、京極世子、如例。至夜二

更半、御帰。○元雅、鳥羽侯、本多生、如、至夜二更

而帰。○勘助、米津世子、大養寺、如例。至夜三更前而

帰。

三日 丙午 曇 夜同時晴

讀書如例。大人、岩村侯、鶴世子如例。元之助在宿。

勘助、京極世子、小幡公子、如例。今日、熊野祭礼、如

例年。式當年は殊之外質素にて見物無シ花杯たて候亭一間有り。青山、子

供見ユ。平池之子共巳之助も見ユ産神御参詣、皆様如例。

四日 丁未 曇 入夜微雨

青山如常。豊吉公子、孝経讀書始。犬、侯世子為射至戸沢侯故無シ元之

助、公子初謁ス。勘助、至工仪平次為設、祠処於東廂也。

且至東海寺為談、太、祖三十三忌、祖二十五忌也。鳥羽

断故也。醫玄静来、覬安兵衛之病。

五日 戊申 時曇、時晴。

讀書如例。大人、濱街牧野世子如例。夜四更平御帰宅元之助、

深川如例。夫、帰路、柳世子如例。尤讀書無之勘助、

元之助、明六日宇和世子之所、今日断来ル。

六日 己酉 晴 或曇

讀書如例。大人、九鬼侯、渡邊老侯、如例。夜四更過御帰

元之助、奥殿如例。勘助、大養寺如例。

七日 庚戌 曇 蒸熱不堪、朝時、降ル。

讀書如例。大人始三人在宿。明八日御年回ニ付、言君御断被仰遣候。一御奥、東

海寺に明八日 大機院様二十五御忌ニ付御参拝。琴叔母君、十生同様

今日、長谷富検校、稻葉侯縁組之儀ニ付来ル。

八日 辛亥 晴 時曇

讀書休。大人御始、元之助、勘助、舞岡之吉右衛門

様、御参拝。勘助参りかけに白銀に寄り申候所、御香典銀一封被遣候。則、御代拜之御願也。白銀之叔父は

称病ニて御引込故、無御参詣。 元之助、此節當月始

左背殊之外しんいたミ、左ノ乳房ニかけいたみ申候故、

今日、良仲、東海寺へ参拝致候故、見もらひ申候所、丹

毒之由申聞候。尤、小□出来物致候。只赤ッはれ申候
ていたミ申候ハ、火丹毒ト申由也。 引膏藥一貝、

万能セき膏藥小成一貝、合て二貝もらひかへり申候。

九日 壬子 晴 晴天炎暑

大人、青山如例。 元之助、丹毒ニて今日も平臥之所、

夕も発熱、悪寒、頭痛等ニて大難澁。 勘助、鳥羽世子

如例。 大人、明日之宇和世子御断参り申候。

十日 癸丑 曇 少し涼氣、時ニ蒸ス。

讀書如例。 大人、奥殿御断被仰遣候而、先日八日御年

回ニ付、諸方も御香典参り申候俟郎、御礼御勤被遊

候。 先良仲に被為入、八日之礼、且、元之介容躰ヲ御申

被遊、煎湯、膏藥、兩様御頼被遊候。 夫も柳侯、夫も鶴

侯、夫も大細川侯、夫も細川藩小堀全順(ハシ)、直ニ御帰宅

被遊候。日暮過
なり。 今日、良仲見廻申候。 煎湯七貼、膏藥中

貝ニ五貝、万能一貝持参致し被呉候。 煎湯は大連翹□之

由也。 勘助在宿。 松屋にのミ至ル。

十一日 甲寅 曇

大連翹 連翹 瞿麥 滑石 車前子 牛蒡
子 赤芍 山梔 木通 当帰 防風 黄芩
柴胡 甘草 荊芥 蟬蛻 石膏 各五□。

以上、外科正宗卷四、赤遊丹之條。」(ウ三)

御講釈如例。 大人、鳥羽世子如例。夜初更過
御帰宅。 元之助、

今昼も発熱、悪寒、大頭痛、不堪苦候。 勘助、金杉に

参ル。

十二日 乙卯 曇

讀書如例。 大人、京極侯明日ニ被仰遣候。 深川如例。

深川奥よりくだ
ミ一桶御投来。 勘助在宿。 元之助、病色同前。 今日夕

も如昨日。しかし少し
ハかるし。 良仲見廻申候。

十三日 丙辰 朝曇、昼後七ツ過も少雨、入夜中雨。

讀書如例。 大人、今日京極之所、勘助も同定日ニ候所、

勘助方に断申来ル故、大人も御出不被遊候。 元之助、

今日は発熱、悪寒、頭痛等大ニかるし。 勘助、小幡侯斗

如例。 今日、紙おし繪燈籠一枚、十公細工致候。 今日

薬取。元之助、煎湯七貼、膏藥一箇、安兵衛薬も今日も来ル。
大真珠丸十包、煎湯二十貼来ル。二十日分也。

十四日 丁巳 朝曇、昼々晴。朝ハ冷氣、昼々蒸暑。

讀書如例。 大人、奥殿に此間十日之替り御出可被遊由

ニ付且、元之助、今日定日故御迎人参り申候所、御断被

仰遣候。尤、元之助は中々此躰故、不参。 宇和世子も

元之助方に断来ル。 右之替り十七日朝申来ル故、十六日

迄左右致し申候へは、参ル積り、左右致し不申候へは、

不参積りに返事遣ス。 尤、両三度も断故、如斯申遣也。

白銀も水滸傳とりニ来ル。 四も七迄合而四冊返ス。 八

下、九上四冊、琴叔母御覽之由ニ而、残シ置申候。 跡十

も十一、十二上、十三、十四、十五ト合而七冊来ル。 是

て上欄不残 財津宅も和本禮記十一、十二本合一返ル。 次卷十

三、十四合、借シ遣ス。」(二三)

十五日 戊午 晴 炎暑 今晩地震少シ斗、七ツ時分也。 入夜初

讀書如例。 大人、濱町如例。 四半時御帰。 元之助、漸々

快氣。 勘助、鳥羽世子断。 青山も明十六日之御断来

ル。 山崎侯も今日登 城、拝領物、且御暇被 下候儀、

申来ル。 岩村侯、今日登 城、拝領物御暇出申候由、

申来ル。 紙燈籠出来。

十六日 己未 晴 炎暑不堪 夜一度遠火、處不知。

青山延引。 大人、勘助御在宿。 元之助、日々快氣之

趣、今日良仲に薬取遣ス。 煎湯斗也。 七貼来ル。 渡邊侯も御詩作来ル。

御直し。 御返し。 済直。

十七日 庚申 晴 炎暑、夕七ツ時前、少雷にて大 雨、涼氣。 夫も夜も同ク曇ル。 昼夜少火

三度、遠火所不知 直ニ皆滅。

讀書如例。 大人、九鬼侯も稻垣侯、如例。 夜五ツ時に

御加籠ニ而御帰宅。 雅日々ニ快氣。 勘助、米津世子

も長谷川公、如例。 夜四ツ過時比帰ル。 築山十大夫、

縁談之事ニ付来ル。 下谷武田氏に此間之産之悦、且、

鶴侯御奥も御無心之芍薬、根共ニ少しもらひニ遣ス。 且、

先達而安産湯之酒寄玄徳 藥代五奴 藥代、南鐙一片、此間参り候故、

此方ニても進物之積りを入、南一錢と一のへ、式奴五分

之錢相引、跡四百三十二文かへす。 尤、半分二奴五分 此方も出ス也。 序故、

小幾須十一モ、小重ニ入遣ス。 主人留守にておる屋との

も返事来ル。 (二三)

十八日 辛酉 雨

今晚遠火一度、早ク減ス。所不知。微涼、襲衣着用くらしい。夜遠火一

度。讀書如例。

大人、米津世子

御婦り駕。小幡世子御迎

共御加こ也。

夜時御帰宅。

元之助、昨日同様。

勘助、木

挽町、鶴世子如例。

十九日 壬戌

曇

夜小雨、忽止、曇斗。屋遠火一度、早ク減ス。朝小雨。

青山如例。今日きりにて土用御休也。

元之助、如昨

日。勘助、鳥羽世子如例。

大人、夜七ツ半過御帰

宅。勘助、鳥羽木曾にもより申候。

須原屋、明後

廿一日、太々祖南郭翁之御遠忌ニ付、供具物来ル。

二十日 癸亥

時曇、時晴

今晚七ツ半時過、明ヶ前中地震。吉右衛門来ル。今日始而茄子百廿六、白瓜二ツ、丸漬五ツ来ル。

讀書如例。大人、奥殿、宇和世子如例。

元之助引込、

日、快氣ニ趣申候。

今朝、明六ツ時過、西良仲老

にも元之助之薬取ニ遣ス。昨夜、大人御帰り今朝ニかゝ

り申候。早々元之助、貞杯ハ終宵不寝。勘助、柳世子

に参申候所、御稽古無之、夫々松屋に参り申候。大人、

宇和世子に被為入候處、滄海ニて御酒出、御つき上下

出申候。肩衣へめせき如仙臺。袴へせいこひら。

夜四ツ時御帰宅。菓子出申候。白銀

昨日之詩作来ル。

水滸傳中編之始十六下、十七下、十八

下、十九下、二十、合九冊

(二四)参り申候。上編八下、

九下、十、十一、十二下、十三、十四合而九冊返ス。上

編終り十五一包(二)本返し申候。須原屋、明日之供物ニ

椎茸一袋、葛一袋来ル。

廿一日 甲子

晴 夕少雷雨、夫々曇りつゞけ。

講釈休ミ。少林院例會如例。解脱院様御遠忌如式。

大人御始、少林院御参詣。雅不快ニ而不参候。今日、

傘一本とくのへ申候。

廿二日 乙丑

晴

今年は暑さ年程でなし。先今日迄也。○今日青山が使来ル。下谷が産婦祝儀ニ而赤飯来ル。尤、先月廿八日出生也。

讀書如例。大人、京極世子、深川如例。夜五ツ時御帰

元之助、未引込。勘助、米津世子、大養寺、如例。

白責、百藏来ル。

白瓜九ツ、九積五ツ持来ル。尤、掃

除に来ル也。白銀、手紙来ル。訪病之詩作、七絶一首

来ル。金子之義ニ申来ル。

廿三日 丙寅 晴 酷暑 今夕暮六ッ過地震、小キナレトモナガシ。

讀書如例。 大人、岩村侯御断来ル。尤替日廿五日申来所則廿五日被仰置候。

夫故鶴世子斗也。 夜五ッ時分御帰宅。 今日、鷲塚金治

暑氣見舞ニ小キこち七本来ル。 右ッ煎付、ツ、キリニ

メ、鶴侯表之小納戸兩人細孫左衛門梅沢文平小角一重ニ致シ遣

ス。 うつりニ小ひらめ一ッ、中あじ一ッツイレモ煎来ル。

元之助引込。 勘助、小幡侯京極世子、如例。 築山

重太夫、藝公子木工之書様之為ニ付来ル。(二四ウ)

廿四日 丁卯 晴 昼之間吹カケ雨、直ニ止ム。 終日好南風。

大人御休ミ。 元之助引込。 勘助、鳥羽木曾、如

例。 今日虫ほし始。 書籍、韓柳箱、ひなほこ共、好

南風ニ而昼之間雨少し有故、一度ほす故餘ル。 同道具

類之虫ほし始。 伯太老侯暑氣見舞ニ中鯉三本、小鯉

二ツ来ル。 則、中鯉二本、京僧清六方に贈ル。尤平日米の世話之礼心也

西良仲に薬取ニ遣ス。 元之助薬煎湯七貼如前来ル。尤有之故

なし。 且又、安兵衛之薬、大人に聞ニ遣シ被遊候所、又ミ

大真珠九十包、煎湯二十貼来ル。 十日分也。

翻刻 芙葉館日記 (二)

廿五日 戊辰 晴 大暑 南風

讀書如例。 大人、濱町御断来ル。 一昨廿三日、岩村侯

替日故、今朝被為入、夫鶴侯細川侯、戸田侯に暑中

御見舞ニ被為入候。 元之助未引込。 勘助在宿。 今

日、虫干。 書籍、道具等、同昨日。 明廿六日、元之助、

宇和世子之所、聞合ニ来ル故、断遣ス。 奥殿明廿六日

断来ル。 大人、夕青木侯に被為入候。 舞岡之吉右

衛門様御見へ被成候。 原宿中井之伊八殿見へ申候。 宮

下之手紙届ケ来ル。

廿六日 己巳 晴 酷暑

讀書如例。 大人、今日松平信濃守殿、東海寺方丈避暑

之會ニ御出故、大人も(二五オ)御出可被遊由、申来ル所、

廿五日信濃守殿より申来今朝又ミ廿八日ニ相成申候間今日延引、廿八

日ニ御出可被遊由、申来ル。 則廿八日御出可被遊由、被

仰遣候。 夫故終日御在宿。 元之助引込、如前日。 勘

助在宿。 虫ほし、如前。 此節書物は二度ッ、ほし申

候。 道具類同様。 渡邊中務少輔殿御養母今晚御死去

之趣知セ来ル。右ニ付定式忌服御勤故、會讀暫延引之段申来ル。

廿七日 庚午 晴 酷暑

讀書如例。大人、鳥羽世子御断来ル故、終日御在宿。

尤、長谷川公今朝断来ル。元之助同様、如前日。勘

助、米津公子ヲ断来ル。尤大人方ハ朝廿八日
被為入、定日断来ル故、在宿。書

籍、道具等虫干等、如前。尤、此節大藏普請前故、書藏

殊之外むしほしいそぎ、道具等不殘(ムシ)取出、風入候而

又々詰納申候故、日々甚紛冗也。今日、京極世子ヲ明

廿八日、元之助定日故、此間勘助ニ罷出候へん由申遣ス

所、今日聞合ニ来ル故、明朝讀書有之故、明後早朝迎人

可参由、申遣ス。同藩之小沢古森と申者、夕方相見へ又

々讀書可奉希望申談也。且、暑氣見舞も兼カキ而也。尤、先達
而世子方

お出申候節しやう
いん致し申候 白銀ヲ人來水滸中編二十一、二十二、二

冊来ル。返ス書物は上編十五終卷也、一卷、中編十六下、十

七下、十八上合而(ムシ)七本返ス。十九上(ムシ)と三本留置申候。

白貴ヲ彦右衛門来ル。茄子百五十八、白瓜十九□□十

一(二五)□ル。

廿八日 辛未 大暑、晴。

讀書如例。大人、此間廿五日信濃君東海寺方丈御出今

日ニ相成申候所、又々今朝断り来ル故、終日御在宿。

元之助引込。勘助、鶴世子如例。

廿九日 壬申 晴 昨日ハ別而大暑

大人御在宿。元之助、今朝病後初而近所故、乍試京極

世子ニ参申候。昼九ツ半後歸ル。然し兎角悪シ。勘助、

鳥羽世子如例。先今日ニて虫干等申たて、来月廿四日(ムシ)

参り申候積り也。今日、青山萱堂、西良仲ニ御出被成

候とて、御寄り被成、終日御遊。七ツ半過比御歸り也。

御みやニ鰻鱺貳百分上ケ申候。

晦日 癸酉 晴 昨日ハ大ニ酷暑、不堪。

讀書如例。尤、今日限ニ而来月一月、如例年、相休ミ、

八月二日ニ相始申候積り也。大人、奥殿、宇和世子、

如例。夜六半過御歸。元之助、引籠兎角全快仕兼候。

勘助在宿。虫干、今日ニて先大概済ム。今日白貴ヲ

茄子百三十持参。小僧来ル。の代ノ事申。 尤是は今日、柳原に暑氣見

舞ニ人遣し申候故、被寄セ候也。柳原之御奥様に煎餅一

重。尤 小角重□中ニ小キ落雁少し交テアル也。 ○土器町四町メ新見 茄子中二十五、嘉川

とのへ遣ス。九かこニ入テ一ぱい也。 又御小姓千里と申小女、琴叔母

に此間御見舞ニ雜菓雜焼トせんべいの様成物紙ツ、ミ来ル子来ル。其禮ニ是も

見舞遣ス。茄子小二十三小キ者籠 ○此千里ハ琴叔母君の夫、神田ニ (二六) 暑

氣見舞遣ス。ところてん一重遣ス。大人ハ青山用事ニ

付、御手紙一通被遣候。帰りニ西良仲老に元之介藥ヲ置

せ申候。明日取ニ可遣由申遣ス。此節取ニ可遣之所、家

来藏等之事ニ付、且、大人之御用等有之故、不遣、漸々

今日遣シ置。儀平ニ参り明日ハ藏かいちヲ引申候由、申達

ス。こハしと車力引代ハ、今日ハ不遣候。瓦ハ今昼ハ

こび申候。

七月 建丙申月

朔日 甲戌 晴 少々曇、忽晴。 ○大人夜ニ入而青木侯ニ

被為入候。夜二更平過御帰。

御講釈今日ニ而當月中御休。来月朔日ハ朔故、来月十一

日ハと被仰候。 大人御在宿。 元之助同様引籠。 勘

助在宿。 今日ハと一の申候藏二間ニ三問壹様也ひき申候。新堀

の辻番之傍道御普請車留故、中ノ橋向迄車ヲ引、夫ハ持

入ル。裏の空地ニ積置申候かき根ヲ明ケテ、夫ハ入ル。

犬、地守長右衛門ニ此間断ル。

二日 乙亥 晴 終日曇ル

大人、終日御在宿。夜、青木侯ニ被為入候。四更半過御帰。 元之

助同様。 勘助、柳侯ハ津輕ニ参ル。尤、元之助名代也。 序ニ良仲

老ニ寄り、元之助藥取寄申候。煎湯七貼来ル。膏藥取ニ

不遣候。 今日ニテと一の申候藏引仕舞申候。石腰卷

等也、済ム。 大人、今日は青山に暑氣見舞ニ御出

後御帰。倉西貞之進方ニ而御手間取申候。 尤御出懸ニ森川に暑氣御見舞御動

致、山師ニも御見舞御出被遊候。 外無事。(二六)

三日 丙子 晴

大人御在宿。(マ) 元之助引籠同様。 勘助、京極世子ハ小

幡世子、如例。 白賁ハ小僧掃除ニ来ル。 茄子百三十。

今日始而さゝけ一把来ル。大人、鶴世子如例。夜五ッ

〔^(ハシ)〕御帰宅。御暑氣中之御塩梅之由、被仰候故、御加籠

ニ而御帰宅。鶴世子^ニ土器町の鰻鱺^{三百}字、松葉小角一重ニ

御上ケ被成候。并ニ世子三人也、小納戸^ニひらめと小す

ゝき煎付^〇。是看今日龍土奥殿^〇、為暑氣見舞、中ひらめ二枚、かまくらえび二ッ、中之すゝき二本、こち一本来ル。南

天重一重ニつめ遣ハス。且、白賁^〇今日さゝけ一把始而

来ル。これを相手に入遣ス。鶴侯、奥之老女松尾^ニ白賁

之茄子十五^{余程}太也。あみニ入遣ス。尤、表小納戸^(ハシ)三人^ハ

先達而日ニ煎付着こち一重遣ス。外暑氣見舞ニ来ル者也。驚塚金治^〇来ル也。勘

助、今日祥雲寺^(ハシ)暑氣見舞かた^〇ニ参ル。鳳皇草と言

草一本もらひ来ル。白賁^〇小僧掃除ニ来ル。茄子百三

十、さゝけ沓把参ル。さゝけハ今日はしめて也。北村玄静、螢二十疋ほ

と贈り申候。

四日 丁丑 晴 大暑

大人御始、三人共在宿。虫干、今日ニ而八九分濟、^{今日}

藏ニ納メ申候。尤少ッ、至九日、終日藏納済ム。

五日 戊寅 晴 炎暑。螢火ノ籠出来。

大人、濱町^ニ可被為入候所、御汗も出来申候と而御断被

遣候。今日、比^ミ谷之上邸之門^ニ頼ミ申候所、請取申

候。加茂数右衛門名あてニして遣ス。序ニ元之助、當月

晦日^〇可参由、申遣ス。尤十日、廿日兩日断也。龍土^〇元之助明日之

定日聞合ニ来ル。明早朝可参由、迎入早ク可参由申遣ス。

六日 己卯 晴 蒸、炎暑如火。尤夕^〇少し曇、夜ニ入、

大人、京極世子如例。今日ニ而先當月中御休會。元之

助、字和世子^〇今朝断来ル。奥殿^〇〔^(ニ七)〕迎人参申候

所、是又此間之大暑ニ而再發氣味也とて断申遣ス。序ニ

十四日之定日^(ハシ)時分柄、且全快難斗一向、来ル廿六日可

参由、申遣ス。勘助、柳世子如例。今日、良仲老^〇昨日

之^(ハシ)薬取^(ハシ)より候てもらひ申候。元之介、薬七貼、安兵

衛藥大真珠丸九包、煎湯十九服来ル。返事ニ、朝夕ニ一

包ッ、可用由故、此方一度に一包申来ル。今昼^〇御濱ニ而

今度大坂^〇参り申候浪人、萩野六兵衛と申火術家^{大坂御陣}

火術家^{と申傳}と申傳、昼之烟十三番、夜之相図火十三番、被仰候而御座

候。勘助ハ帰りかけニ金杉邊^〇に見物ニ参ル。元之介ハ

屋根ニ而見物致シ候所、甚能見へ申候。しかし余程之風ニ而昼ノ烟と之同焔とおもふ程ニハなし。夜のハ花火同様ニ而甚面白し。外ニ一番始ニ人形などをたてゝ打船なとを打申候事有之候へ共、^(ア)外ニ書付あり。可見。昨日之返事、数右衛門より来ル。裏より西瓜一ツ祝贈り申候。

七日 庚辰 晴 好大南風、黒雲時々たなひく。 立秋

七夕之御祝儀、如例。夜、御酒、玉子之御吹物出来。

昼之御酒、葛に魚之さし^(ア)。好々大南風故、雲時々吹

出ス。時晴レ、時曇ル。祥雲寺より先達而大養寺にかけ

て^(ア)金子かへる。又々當暮迄頼呉候様ニ申来ル。

白貴より万蔵掃除ニ来ル。茄子貳百三、白瓜二十、丸漬二

十一、さゝけ大たは疋把参り申候。白瓜ハ跡ハ大暑ニ而

かれ、少々之由也。

八日 辛巳 好大暑 晴 好々南風、午時過止ム。夜北風、覚涼。此節夜少しッ、遠火。

大人御在宿。元之助、京極世子如例。是ニ而先十八日

休ミ。来ル廿^(ア)八日之約ニ致^(ア)。勘助在宿。大人、

今日加治橋岩村侯、明九日ニ御坐立之由、此間申来ル故、今日^(ア)「^(ウ)」^(ニ)成^(ア)所、餘り大暑

故、久平斗被遣、御断被仰遣候。白貴より^(ア)

損シ申候所^(ツ)柄ヲハメ申候^(ウ)如此ニツ出 打直させ申候。代疋分ニ

之由、歟持参。^(ア)全駄^(ウ)は両方ニ而此方様と彦半分

ッ、代を出し申候證文約束故、其訳申聞候所、^(ア)

「柄なと三四百銅ほとツ、にて、はなとを入計也 三度

すけかへ申候。^(ア)柄にも不様はなと故、此^(ウ)疋分可被遣由也。

右ニ付今日又々約束相定メ以来は打直し申候迄之柄、或

ハ齒なとつけ申候事ハ、彦右衛門方ニ而致し、打直し申

候節は、此方より疋分ッ、可遣由、相定申候。則、其儘聞

被置候。只今迄右之歟九年つかひ申候由、申聞候。お

てい、おみな不快^(ア)中^(ウ)也。藤川に薬取ニ遣ス。湯液貳貼

来ル。安昌寺^(ア)蕎麦粉一重、銀三匁来ル。使^(ウ)。

九日 壬午 晴 朝夕北風、涼氣。朝夕如中秋。入夜青山邊火事、早々滅ス。

今朝、藤川見舞ニ来ル。薬五貼来ル。兩人合て也。溝口

権蔵稽古ニ来ル。大人、今日ハ小幡侯に被為入候。

十一日發駕之由故、夫をかねて也。
然ル所廿一日比之由也。夜四過歸。

(疎消カ) 元之助津輕に参ル。勘助、

津輕に頼ミ参り貰ひ申候所、皆々留主ニ而断也。夫々木

曾に参申候所、是又断也。元之助、大養寺に参り申候

所、留主、道ニ而和尚ニ逢、断申候。且、先日七日、祥

雲寺に金子帰りに申候故、今日持参。子銭壹分貳朱、錢二

百十七文此代貳分五厘、當時之相場也。朱ニ六百五十一文之相場也。仙心に渡し申候由、道ニ而

はなし、夫に参り仙心に渡し申候所、取落シにて南鐐一

片(ムシ)所望故、此間ニ遣ス筈也。且又、元金ハ祥雲寺に今

日、當暮迄借り呉申候様ニ被頼候間、其段和尚に申聞、

又々持チ帰り申候。

十日 癸未 晴 朝夕如仲秋。然南風故凌(二八)

今朝、芝崎直吉稽古ニ見ユ。大人 (ツキヤ) 元之助、勘

助、在宿。融卿見へ申候。孟子註疏本、九、十、十一

章告子上篇合一本萬かへり申候。次卷、十三、十四、十五合卷一本、

暫之間之約ニ而借ス。白銀に使遣ス。一昨日、大人御

手製之かすていら五切遣ス。大ヤニ能出来、誠ニ店屋物のことし。原宿七右衛

門殿見へ申候。

十一日 甲申 晴 好々大南風。朝々屋迄少曇、はら／＼雨有。屋々大ニ晴。星之間雷少シ。雨なし。入夜少火あり。

今朝、七右衛門殿出たつ被致候。勘助、谷中瑞林寺に

下谷武田永昌寺、浅草□念寺、(ムシ) 例年。神田之長谷富に當年

向ニ不参故金百疋遣ス。添物なし。参り申候。参りかけ山崎侯□被成候。唐

詩選之代物須原屋に遣シ申候。大人御在宿。元之助

少風邪之氣。おてい未全快不致、今朝藤川見へ煎湯五貼

もらひよせ申候。白賁に百蔵裏に掃除ニ来ル。此方に

茄子二百九十八大小共、白瓜十一、丸漬十、瓜□い

つれも大へほ也。さゝげ三把中たば也持来ル。

十二日 乙酉 晴 先大鉢曇

大人御始不殘御在宿。此間大工蔵普請前、虫ほしにて

大取込。盆の使、今日皆(ムシ)始而来ル。今夕方、祥雲寺に

使来ル。昨日約束之證文一通是へ昨日実詣者見へ申候。酒出ス。且先達御之大養寺に借用致シ進せ申候金子

十五斤、又々當暮迄借用被致度由之所、霜月十三日迄之約ニ致し(ムシ)なりかね

申候よし、大養寺にて申候よし。則、暮迄之、右之事申候へは、霜月十二日迄ニ

て随分(ムシ)故□十三日迄、約ニ致し遣ス。尤、利は只今迄之通り

十五日一分之額り也。かり請取被致候。直ニ実詣和尚持参被致、被頼候。来ル。

昨日かり請取かへすへき由申来ル所、夕ニ使見へ申候而、

二九

み等致し大こまり也。

十九日 壬辰 晴 秋暑不堪

今日、鳶斗来ル。大工儀平二不来。丸屋材木来ル。

外無事。大人御始、不残御在宿。

二十日 癸巳 晴 南風

大人御始在宿。(抹消カ) 今日、普請方、如昨日。儀平次替リニ

茂平二ト申者来ル。大人、今日久留嶋に御家督被為蒙

命候御祝ニ被為入候。夫山崎侯御女子出生之御祝也。 夫小幡

侯に被為入候。是ハ明廿一日御發足之祝ニ也。 今日昼、藏とりかたつけすミ

申候。久留嶋中(ムシ)之祝儀来ル。如例。

二十一日 甲午 晴 秋暑不禁 浅草誓願寺中(二九ウ)

大人、(ムシ)邊赤坂邊被為入、夫今井谷、榊原公子に被

為入候。今日、(ムシ)今日藏ノ下地形ニ取

かゝる。とひの者四人来ル。市。留。鉄。 白責(ムシ)

大小共六百七。大籠ニ二は。 さゝげ三把もち来ル。臺所之向

フ之檜の木(ムシ)故、此間見分ニ参り呉申候様ニ

ト也。且、右之檜の木御もらひ申候。ニナヒ荷桶拵申度由也。

只今之になひをけ當年
て十五年ニなり申候。

廿二日 乙未 晴 秋暑不禁

今日も大工、今日兩人、鳶四人、如例。大人御始御

在宿。外無事。

廿三日 丙申 晴 朝之内曇ル

今日、大人御始御奥ニ而榊原先生之御ふるまひニテ

浮舟避暑、番東太郎之鯉を御ふるまひ之由ニ而被為入

候。舟興大好之由也。尤、琴叔母、己奈、貞ハ不快故不

参。元之助、普請中、且不快故、不参。勘助、十生参

ル。在宿之分ハ上ノ四人而已。宵之初鼓半時分ニ御帰被

遊候。大工兩人来ル。如昨日、鳶二人来ル。外無事。

廿四日 丁酉 晴 終日曇。夕雷雨、通宵不止。

外無事。大人御始御在宿。大工兩人、鳶頭と外ニ鳶二

人来ル。如例。

廿五日 戊戌 晴 朝之内微雨。五更比々晴ル。

今日、大工兩人、鳶四人来ル。當日(三〇オ)吉日ニテ棟

上ケ。職人共ニ酒出ス。(ムシ)ニ而祝申候。外無事。左官、

今日も土こね等にかゝり申候。

廿六日 己亥 時曇時晴 蒸暑如昨日

今日、大人、稲葉能登守殿之世子虎二郎殿、稽古初入門被致ニ付、^(ア)被為入候。甚整、礼申候也。夕、青木侯に被為入、如例。元之助、今朝宇和世子に参ル。如例。奥殿も迎参ル所、宇和侯も直ニおくりの人ニ断遣ス。

勘助、京極世子如例。大工兩人、鳶二人来ル。尤、鳶ハ今日切也。左官甚八来ル。^(ア)代^(ハ)遣し申候。

廿七日 庚子 晴 残暑甚シ

大人御始御在宿。當日生身魂御祝儀、如左。

御酒

御吸物 小鯛

御鉢物 鯛めん 尤中鯛也。昨日、稲葉世子ニ而出申候御焼物也。

御井 とうくわ はしきまめ すはしり

御硯蓋 いも ゆりのね しらかみそ すはしりの^(三)_(ウ)

くわる かほちやのでんがく えたまめ くるまえば

御鉢 中あしのたて酢

御鉢之物 魚^差

御さしみ鉢 極上清鮮 かつほ

以上、尤此内魚鯉ハ十生ガ献する也。其外ハ惣不残^(マ)より被献候。予も又同様也。今日ハあかり献上ハあまり暑氣等不快ニも相さわり可申由ニ而、新堀にすくひニ不参。追而之事ニ可仕。白貢ガ万歳来ル。茄子三百六

十二来ル。これ^(ハ)漸間有之由也。さゝけ、大たば壱把参ル。最早跡ニ無之由也。今日、檜の木ぎらせ申候。^(ハ)是

此間、中も見分ニ可参之所、用事等にて未不参、今日、むきほし申候。しやまニ成候由ニ付、きり申候。見分ニハ此間ニ可参

申聞置候。朝鮮松の木葉大分あく成申候由、申候。

大工兩人来ル。左官方土こね長左衛門斗来ル。舞岡之

彦右衛門様御出。其夜大養寺に御出被成候。^(三)_(オ)

廿八日 辛丑 晴 残炎如焰

大人、岩村侯に此間之祝ニ御出被遊、夫も米津世子定

日、如例。外無事。

廿九日 壬寅 晴 大暑不堪

大人、宇和世子、今日も又、御出被遊、夫も青山に暑中

御見舞、且、盆之祝儀之御祝ニ御出被遊、御帰り夜六半過也。今日、土蔵之あら打仕候。不残にさし見舞、鰯之につけて酒出ス。酒三升入申候。元之助、并勘助在宿。左官甚八に金貳兩相渡ス。此迄都合三片也。

大八月 建丁酉月

朔日 癸卯

晴 昼前より好□南風。終宵不止、入夜弥勁、夕より少々曇。

當日之御祝儀如式。御酒、御吸物、硯ふた、井也。今日、左官二名参。外無事。

二日 甲辰

晴 好南風、暮前ニ止ム、時雨時晴、入夜三更時分より雨、今日より讀書相始申候。

「(三二)ウ」

大人、深川御迎不来。且、間違ト京極世子より御迎人不

参。終日御在宿。元之助、鳥羽世子、今日より、又々参

り申候。舍人より寄、如例。本田、津輕にハ不寄、夕七ツ

半過帰ル。勘助、米津世子如例。外無事。

三日 乙巳 雨

風静微雨、秋(ハ)覚涼、雨ハ先大方なし。曇斗。朝より昼迄少しふる。夜九ツ過、青山邊火事。早く減ス。

大人、岩村侯御駕與より鶴世子、如例。夜五前時御帰。

元之助在宿。勘助、京極世子より小幡世子、如例。舞岡

之吉右衛門様御出。明日より下総に参り申候由也。久留

嶋侯より使来ル。此間さゝしん上ヶ申候時之ふた物、風呂

敷帰ル。うつりに鴨のみそつけ来ル。又々十四日より相始

り申候由也。外無事。

「(ハシ)四」 日 丙午 曇 今朝五ツ少前少地震。

大人、柳生侯に被為入、御帰七ツ半前。夫より青木侯に被

仰遣候所、御出可被下由、申来り、又々暮時分ニ断来

ル。元之助、勘助在宿。外無事。

五日 丁未 雨 終日雨、時々つよし。

大人、稻葉侯に被為入候。七ツ前御帰宅。濱町に可被為

入之所、雨もつよき故、不被為入候。元之助、勘助在

宿。外無事。

「(オ三)三」

六日 戊申 東風(ムシ)ニ而大風雨 夜晩方止ム。入夜猶弥繁シ。

讀書昨日同様、如例。是迄認無之もつけおとし也。

大人、九鬼侯に、夕七ツ半時分御帰宅。元之助、奥殿に

参ル。宇和世子も今朝断来ル。奥殿も夕七ツ過ニ帰ル。

大風雨ニ而駕輿ニて帰ル。かこの内大ぬれ也。勘助在

宿。大人御帰之節も御駕輿。漸凌風雨(ムシ)て御帰、當

日之大に好風雨、旧年去之秋大に風雨同様ニ而、品川等つ

なニ同様ニ而家もくつれ、人男女十三人即死。深川鶴侯

之御屋敷も公之御居間、ゆか上七分ほと、家中はゆか上

二尺ほと。永代橋ゆるき、くつれてとまり申候。是も則

つなみニて大惣とう也。東橋落ツ。洲崎之弁天堂ニ而人

十五、六人も即死。此方ニても夜中、屏等を指揮致しと

りとめ申候。芝之海前夜ニ大鳴、且、當日昼時分少地震

あり。夜ほと風雨なとつよく、東風ニ而誠めつらしき風

雨也。白貴も彦右衛門来ル。茄子三百八十 もみ大

根(ムシ)く(ムシ)にちのもち来ル。今日此間きり(ムシ)□檜之木ニ而樋屋よ

び、荷ひめしびつ拵させ申候ニ、二日かゝり申候。一日

ハ代二百六十四文。飯も此方ニてたへさせ申候由。たが

に此方の竹一本きらせ申候筈也。其通り申つける。おは

ちの寸法如左。

七日 己酉 晴 朝之内少雨、昼後も晴。 (二三)

讀書如例。大人、奥殿も長谷川侯。元之助在宿。

勘助同。

八日 庚戌 晴

讀書如例。大人、今日も赤坂公子相始り例之通りニ御

座候。元之助、京極世子も小幡侯如例。夜六ツ半過ニ

罷帰ル。大人、夜五ツ過御帰宅。勘助、鶴世子如例。

今日昼九ツ少過、飯倉片町出火。元之助、京極侯ニ罷

在、大騒動也。然し早く滅ス。外無事。

九日 辛亥 晴 昼も曇、夜少あらし也。

大人、青木侯に被為入候。元之助在宿。勘助

外無事。

十日 壬子 晴

讀書如例。大人、稲垣世子も宇和世子。夜御酒在り。

宮木野鈴虫三疋、松虫三疋、沓籠ニ而、中はしきり有之候籠ニ入参ル。且、稻垣世子も御つき上下沓具出申候。
肩衣ハ 袴せいこひら 此節始而也。元之助、濱町も断来ル。勘助

「(三三)オ」

十一日 癸丑 晴 秋涼

讀書休。今日も御講釈如例。大人、京極世子も稲葉世子、如例。元之助在宿。勘助同様。昨日儀平二見へ申候。白賁も万蔵来ル。小豆七升給申候。勘助、白銀に参り申候。

十二日 甲寅 晴 秋氣凄凉

讀書如例。大人、入夜青木侯に被為入候。昼之間、米津御断。柳世子に被為入候。元之助、稻垣世子如例。舍人に寄、暮比帰ル。勘助在宿。尤、昼、白賁にたかに致し候竹一本きり申候を見分ニ参ル也。祥雲寺にもより申候由。外無事。

十三日 乙卯 晴 秋晴

讀書如例。大人、鶴世子如例。夜 元之助、大

養寺に参ル。是(アシ) 當月二度也。勘助、京極世子、小幡世子、如例。大養寺に半紙之書付遣ス。柳原に人遣ス。文箱とりよせ候為也。序ニ下谷ニ水見舞ニ遣ス。外無事也。青山も来ル。十六日、例講被始候由申来り候。

「(三三)ウ」

十四日 丙辰 晴 昼も雨、南風ニ而曇。夜少之間晴、月出、深夜ほとくもる。

讀書如例。大人、田町今日も相始り申候。夫も小幡侯被為入候。是又今日も家中之講を被始候。先様子ニ寄り聴客太せいなれへ以來も有 元之助、奥殿断。宇和世子如例。勘助、田町如例。夫も在宿。嶋上州(アシ) 手紙とムけ参り申候。嵩山房に龍神数馬に届ケ

夫故龍神も届ケ来ル。

今夕御月見御祝儀如左。

御酒 御吸物はまくり 御臺物 旧年のを用ニ、菊・萩・すみき・石竹の作花の臺(アシ) 小くしスバシ

リ えた豆 さつまの(アシ) 田作の てんふくらけ 唐豆燗 むかこ

御吸物くしら 御鉢物いたなのにつけ

井さといも 色付煮 井とろろ 外に例年の舊物の花いけ三重

左如。

三重ノ花いけ

上ノ重ゆりねニさとうみそ上中ノ重大下ノ

重うなき時雨つとふ始くわい

已上

十五日 丁巳

雨

昼少シ地震、風モ余程有り、ハッ比多晴、
晩程月の出、満月晴光、六ッ後多曇、五ッ
後多少雲間ニて月出、忽曇。

讀書如例。

大人御在宿。少し御積氣之御塩梅。元之

助、夜分暮比多長谷川侯ニ月見ニ参ル。尤、子供参り可

申由。大人御約束之處、雨後ニて其上大人も御出不被遊

故、不快之御断申候。勘助も不参。元之助斗夜九ッ比ニ

罷歸ル。

勘助在宿。

今日、聖堂釈菜。

十六日 戊午

朝微雨

(ハシ)曇斗暮比多雨、深夜八ッ後

多大雨。

「(三四)

今日多青山如例。大人并元之助、如例。夜七ッ時帰宅。

尤大人、南主税方御出ニて遅く相成申候。

勘助在宿。白銀多使来ル。叔父腫物、

逐日御快気、且水滸傳不残返ス。本屋度多せつつき申候

由ニて、取ニ来ル。水滸傳合而九冊返上致候。

十七日 己未

終日雨

昼迄余ほとつよし

讀書如例。

大人、九鬼侯御断申来ル。并ニ鳥羽世子多

も御断申来ル故、御在宿なり。元之助在宿。尤、来ル廿

日濱町定日之所、晴天ニ候へは龍土宇和世子ニ打毯見分

之御約束ニて可参由故、濱町を今日ニ此間申遣ス。然

ル處、大雨故、今日は御苦勞ニも被存候故、晦日ニ御出

可被成由、申来ル故、昨夜且連夜之つかれ故、二十日雨

天ニ候ハ、参上可仕由申遣し、不参候。右故、廿日雨天

ニ候へは参り可申候。長谷川侯多断来ル。勘助、米

津世子如例。

十八日 庚申

終日雨

夕七ッ少過少地震、寒冷頃日寒シ。

讀書如例。

大人、九鬼侯多赤坂

(ハシ)如例。夜四ッ過御

帰。従是被為入候度ニハ詩作無之事も有之候由、薄田

口上申遣ス。元之助、小幡世子、堀孝之丞殿方ニ不幸

事有之、急ニ忌中ニ被成候由ニ而塗中迄断来ル故、夫多

京極如例。

十九日 辛酉

雨 入夜大雨

青山如例。夜九ッ時歸ル。勘助、白銀ニ参ル。白鳥

すばしり七ツ、時候見舞来ル。是ハ(三十四ウ) 七月(ム)□来
所不参故と見ニ。

二十日 壬戌 雨
時曇時雨、先十日ハ八せん也。入夜大好、
南風雨、時々電光。然シひかり平日とハち
かひ白光也。跡而聞ヘ道中四日市等之ひか
りものムよし。則それト也。

讀書如例。 大人、龍土宇和世子、奥殿二間共御断申来
ル。 元之助、濱町如例。然ル所、入夜大風故濱町ニテハ南風ナレハ潮出

申候故、殊之外懼ル。 世説無之、早ク帰ル。時々光り真暗ニテ秋雨、

土橋邊魚店之小屋大方吹倒ス。四半過帰ル。尤駕籠ニ而
帰リ申候所、餘り風勁ク後ニハ駕ニも乗ル事致しにくき
故、愛宕下ニ而おり申候。帰後、忽大風雨、翻屋非尋之
風雨也。

二十一日 癸亥 晴 少暑之気味也。

御講釈如例。 御詩會ハ此節藏普請故、大養寺ニテ相催
申候。吸物もみそすり参りたのミ申候。外無事。今日昼
迄ハ昨日之風有リ。

廿二日 甲子 晴 大分寒シ

讀書如例。 大人、米津世子、京極世子ハ稻葉世子如

例。夜五ツ時分御帰宅。 元之助、鳥羽世子如例。勘助、

柳世子如例。大養寺ニ帰リニ寄候所、留主故帰ル。 白

貴ハ万蔵来ル。茄子小也百七十七、もみたいこん小たば

四把来ル。外無事。

廿三日 乙丑 雨 今日ハ彼岸

讀書如例。 大人、岩村侯ハ鶴世子如例。 元之助在宿。

勘助、小幡世子ハ京極(三五オ) 世子如例。 外無事。

廿四日 丙寅 大風雨、入夜半漸休、寒シ。

青山如例。 大人、今日は餘り強き風雨故、入夜御帰宅之

駕輿出申候。夜四ツ半時御帰宅。 元之助同様。 勘助在

宿。當日大風雨、如先達。雖然、それハかよハしがた

シ。

廿五日 丁卯 晴

讀書如例。 大人、濱町如例。夜九ツ時御帰リ。 元之

助、柳世子ハ大養寺如例。 勘助在宿。

廿六日 戊辰 晴

讀書如例。大人、九鬼侯^も渡邊老侯如例。元之助、

宇和世子斗、奥殿内容之由^ニ而断来^ル。宇和世子^も今日

始而横麻之上下出^ッ。紋竹^ニ雀也。勘助、米津世子如

例。又大養寺如例。

廿七日 己巳 晴 秋暖倍常

讀書如例。大人、鳥羽世子^も微酒服用如例。元之助在

宿。勘助在宿。

廿八日 庚午 晴 入夜曇、雨微雨也。 一(三三)

讀書如例。大人、久留嶋侯^も赤坂公^(アシ)如例。夜四ッ過

御帰宅。御駕輿也。元之助、京極世子^も小幡世子如例。

尤、小幡侯も今日^も月並論語致し申候。夜六ッ半時^(アシ)帰

ル。勘助、田町斗。青山^も子供来^ル。

廿九日 辛未 雨 終日不止

大人、御在宿。元之助、勘助同様。外無事。此間大母

君、御背中ニ輕キ瘰腫等之物御出来被成候^ニ付、良仲

今日膏藥取^ニ被遣候。丸紙^ニのへ申候膏藥五枚参り申

候。且、おてい痔疾之氣味故、是又膏藥取^(アシ)遣^ス。一具

来^ル。

晦日 壬申 終日雨 寒涼

讀書如例。大人、奥殿^も伊達世子如例。兩方共御駕輿

也。元之助、濱町^も迎不来故、不参。然ル所、築地伊

東多宮殿死去之由、今日為知来^ル。 一(三三) 右ニ付弔ミに参

ル。法名信受院殿寶山壹行居士と申也。昨申ノ下刻御死

去之由申来^ル。尤、廿九日之日付故廿八日之事也。白

銀^も使来^ル。はつ葺小角^ニ一重来^ル。通鑑四本返^ル。

五(六)、又々四本借^ス。十、十一、十二、十三と四本^カ

す。尤、九、十之二卷ハ岡部半助^三 ^(アシ)故、

飛こし申候而也。 一(三六)

九月 小 建戌戌之月

朔日 癸酉 雨

御講釈如例。論語御講釈今日ニて相済申候。十一日^も左

傳^ニ相成申候筈也。大人、稻葉侯世子^ニ御出被遊候。

夜四ッ御帰^リ也。元之助在宿、勘助在宿。外無事。

二日 甲戌 雨

讀書如例。 大人、京極世子も青木侯如例。夜四ツ半時

御帰宅。 元之助、麴町も本多千五郎、如例。夜五ツ半

過、四ツ時罷帰ル。 今曉八ツ半時分、半藏御門外、三

宅豊後守殿御殿、雨中不残焼失致し申候。 今宵四ツ時

中くらひの地震。 昨^(ア)諸侯方御登 城後、於大廣間、

御老中松平伊豆守殿、唐船可打払由 上意を以被仰渡

候。

三日 乙亥 雨 終日終夜、入夜風雨、夜半愈甚、曉方迅風雨。

讀書如例。 大人、岩村侯も鶴世子、如例。夜五ツ比御

帰宅。 元之助、七ツ比^(ハ)白銀之叔父^(ニ)参^(ル)。夜四ツ半

時帰ル。 勘助、京極世子、鳥羽世子、如例。白賁も万

蔵来。茄子二百^(ア)十、もみ大根^(ア) 紫蘇等持来^(ル)。尤、

掃除ニ来^(ル)。 外無事。 遠田も明四日、来^(ル)九日之断

来^(ル)。 且又周礼^(ア) 疏四本返^(ル)。次四本、廿二も四本か

し遣ス。 廿二、廿三、廿四、廿五、
廿六、廿七、廿八、廿九、

四日 丙子 烈風雨 昼後八ツ比^(ハ)晴^(ル)。 西風大ニ甚^(シ)。 (三六)

^(ア)人共^(ハ) 今日大風雨ニテ尤昨夜半も也。 昨年好、

大南風。尤^(ア)空^(ハ)はいまゝて^(ア)之方ハ空程ニハ無

之候へ共、日ヶ久保邊屋宅等、吹倒し申候處^(ア)

見舞ニ参り申候。尤、湯川一雲宅ニテハ屏ヲ倒シ、

物見等打損、其屋根^(ア)なくなり申候。物^(ハ)も色、手あ

ていたし申候得共、ふ行届。裏板屋余程吹損シ申候。去

月八月六日之大風も洊甚敷、芝傳兵衛参り承申候得は、

去^(ル)六日之大波時分もハ昨夜も今朝ニかけ申候水、三、

四尺も余けい之波ニ候由、将監殿橋之傍小舟大方陸地^(ニ)

吹上ケ申^(ア)由、見来り、はなし申候。處々出水非常之

事、新堀も橋之上迄水出申候。數事也。尤、風も昨夜半

東風、今曉東南風、朝四ツ過^(ハ)南風也。 昼後八ツ比^(ハ)晴

天、乍然、風未止、西風ニ相成、大概^(ア)大風ニ而兎角止

かね申候。

五日 丁丑 晴 秋晴、暖氣。

讀書如例。 大人、築地、伊東弔。夫も柳世子如例。夜

五ッ時御帰被遊候。時御帰宅。元之助、大養寺に参ル。勘助在宿。夕、松屋に参ル。外無事。

六日 戌寅 晴

讀書如例。大人、九鬼侯と伯太老侯如例。夜 時御

帰宅。元之助、奥殿(三七)如例。尤、(アシ)字和世子断。

明七日早朝替日申来ル。勘助、白銀叔父詩経會に参ル。

屋代(ム)左衛門に此間志ニ餅来り申候。御返事遣シ申候。

七日 己卯 晴 夕曇、宵之内少し降ル。夜半曇。

讀書如例。大人、鳥羽世子に御迎人不参故、不被為入

候。夜、青木(ム)被遊候。元之助、長谷川侯如例。夜

九ツ時分ニ帰ル。勘助、米津世子如例。外無事。

八日 庚辰 晴 秋晴暖氣

讀書如例。大人、田町久留嶋侯と赤坂公子、如例。夜

四ッ半過御歸り被遊候。元之助、小幡断来ル。替

日申来ル。右故、京極世子而已に参ル。いそぎ(アシ)

暮六ッ過帰ル。夫、此間(アシ)中之約ニ而白銀叔父方に留宿

ニ参ル。今日、青山邸藩之高田禎助、當月又々例年

之通り御扶持方正米渡りニ可成申候段、被知来ル。勘助、田町と鶴世子、如例。

九日 辛巳 晴 朝之内曇、昼比曇、暖也。(三七)

(ム)伺如例。三人共御在宿。元之助、今朝四ッ

過ニ白銀(ム)罷帰ル。白銀(ム)夕方人来ル。通鑑とりかへ

遣ス。横小口ニ而廿二、廿三、二本帰(ム)先残り居、其

次又々かし遣し申候。則、横小口ニ而廿六、廿七之二

本(ム)。外無事。

十日 壬午 晴 夕七ッ時分少し遠雷、秋晴、暖氣倍常。

讀書如例。大人、奥殿と龍土字和世子、如例。尤今夕字夜

寒。元之助、濱町如例(ム)九ッ過罷帰ル。勘助在宿。

十一日 癸未 晴 氣色如昨日

御講釈、今日と左氏傳相始り申候。大人、大養寺に御

出被遊候。元之助、少々不快、何レにも不参。勘助、

今井谷詩會に参ル。外無事。

十二日 甲申 晴 秋暖倍常

讀書如例。大人、京極侯御断り、米津、柳世子、如例。

元之助、鳥羽世子も本多、如例。月夜〔夜半罷帰〕
勘助、柳世子も大養寺、如例。

十三日 乙酉 晴 好天〔二八〕

讀書如例。大人、鶴世子御断。稲葉世子、青木侯如例。

元之助在宿。勘助、京極も小幡、如例。夜之御月見、

如例年。白銀も使来〔鰯少シ来ル。夜之御月見、

御吸物、松茸〔小幡表も参由にて大人に参り申候生松茸〕〔ふた〕井

鉢〔あかえび〕〔鶴世子、前髪御取被成候。来ル十五〕御頼相

濟ム為知来ル。

十四日 丙戌 晴 夕方より曇ル。今夜半、中くらひの地震有

讀書如例。大人、小幡侯月並之講釈。夫も伯太老侯、

如例。夜 時御歸り被遊候。元之助、宇和世子も奥殿、

如例。夜六ッ半比ニ罷帰ル。勘助、松屋も白銀之〔叔〕

〔参ル。〕宇和侯藩之大西登も、いなた三本、鰯二本も中なれ

り。外無事。

十五日 丁亥 晴 暖倍常、大あたゝか也。今晚地震一度。

讀書如例。大人、元之助、勘助共、鶴世子、今日御前

髪御とり被成〔祝儀〕〔罷出申候。元之助、勘助ハ夜
五ッ比罷帰ル。大人は奥有之候而、夜半八ッ比御帰宅。
御醉態、御駕輿也。〕

十六日 戊子 晴 暖氣倍常

〔延引〕〔相成候故、今日讀書仕候。大人、昨夜之
御醉態故、今朝、〔雀侯并ニ鳥羽〕〔御断〕。元

之助、柳世子も津輕ニ参ル。〔津輕、今日始而参候。留主故稽古なし。〕勘助在宿。

外無事。

十七日 巳丑 晴 此節之暖氣、正月比ノ如ク。時服にてハ大

青山、大人、元之助、如例。夜九ッ半時少過罷帰ル。

勘助、長谷川侯〔参ル。〕麻上下〔出申候。〕白貢も

万歳来ル。茄子、胡麻、藩椒、紫蘇等持来ル。今日、

茂平ニ呼寄申候。大藏之けむりかへし、木瓦打つけ等致

し申候。

十八日 庚寅 晴 寒風如冬

讀書如例。大人、赤坂如例。夜四ッ過御帰宅。元之

助、不快故引込。勘助、鶴世子如例。外無事。

十九日 辛卯 晴 暖和也

青山延引。 大人、御在宿。少々不快。 元之助、勘助

共少々不快故、在宿。 今日、濱町牧野侯も御在所之松

茸生也取来、早味妙也。 青山、坂原小平と伊東^(アシ)兩人

に弔ミに人遣ス。 坂原に干瓢一把、伊東に饅頭といまさ

か遣ス。 序ニ今井谷に明廿一日詩會断之人遣ス。

且、奥殿に大人御断被仰遣候。 當日、土藏屋根ぬり申

候。^(是迄而式度也。) ^(三九)

二十日 壬辰 晴 昼後少々曇ル

讀書如例。 大人、久留嶋侯十四日定日、今日ニ相成、奥

殿昨日御不快^(アシ)御断。 右故、田町に被為入候。 夫も

字和世子如例。 元之助、濱町^(アシ)来ル。 勘助、田

町も柳世子に参ル。 今日、左官甚八、俸老、手傳老

人、土^(アシ)こね長^(アシ)左衛門、合四人来ル。 砂すり致し、南之

側大直し致申候。

二十一日 癸巳 時雨、時曇 村雨也。 夜半も余程ふる。

今日御講釈、御詩會御延引。 是ハ青山遠田侯に御客有之

ニ付、大人、元之助、兩人^(アシ)参ル故、早朝も参。^(朝四ツ半時ニ参リ)

御客は兩人、北條相模守殿、戸川鉄藏殿也。 大人

夜九ツ半時帰ル。 鳥羽世子藩中、稻垣要人^(アシ)中

程大^(中)鰯式本^(アシ)来ル。 是ハ先達而大人も名乗を考

へ被遣候礼也。

廿二日 甲午 晴 尤、朝雨、昼も晴、昼も夕八半過七過迄大

讀書如例。 大人、米津世子も稲葉世子、如例。 夜五ツ

半時比御帰宅也。 元之助、鳥羽^(アシ)断来^(アシ)。 替日廿五

日申遣ス。 勘助在宿。 稻垣舍人讀書ニ来ル。 田町^(アシ)

廿三日 乙未 晴^(アシ)

讀書如例。 大人、岩村侯も鶴世子、如例。 夜 時御帰

宅。 元之助、^(アシ)寺に参ル。 勘助、京極世子断り、

小幡世子斗也。 土^(アシ)こね長左衛門、たのミ申候。 瓦土を

こね申候。 稲野鉄之助御雇^(火之廻リ)被申付候。

廿四日 丙申 晴 入夜曇、曉前も晴。

青山如例。 帰宅は八ツ時也。^(是ハ稲野の神保大八悦ニ参リ同飲故返シ。) 帰宅之上終

夜。勘助、米津世子も白銀叔に、神田惣八郎も遠山侯へ
ト見へ申候。鱧三本中也。

廿五日 丁酉 晴

讀書如例。大人、京極世子も濱町如例。元之助、鳥
羽世子も本多千五(ハシ)。勘助、松屋も江崎玄仙坊に参
り申候。今日、瓦師老手参り申候。甚八(ハシ)申候。

是は土こね長右エ門
かへりに参り申候。

廿六日 戊戌 晴

讀書如例。大人、九鬼侯も渡邊老侯、如例。夜九ツ時
御帰宅。元之助、龍土(ニ)字和世子断り、奥殿斗に参
ル。勘助、釣ニ参申候。風有りつれ不申候。

廿七日 己亥 晴

讀書如例。大人、鳥羽世子も長谷川如例。夜九ツ前、
四ツ半比御帰宅。元之助、津輕如例。勘助、大養寺
如例。長谷富檢校見へ申候。餘り不(ハシ)故参り申候。
且、又々稽古ニ可参由申候。

廿八日 庚子 風雨 餘りつよくはなれ共、先大駄也。大寒冷。

讀書如例。大人、赤坂如例。夜四ツ半比御帰宅。朝、
久留嶋侯に御出(ハシ)被為入候。元之助、小幡侯も京極世子
如例。夜四ツ前罷帰ル。勘助、田町も鶴世子如例。
外無事。

廿九日 辛丑 晴

讀書休、謹書致ス。大人、奥殿御断、宇和世子如例。
元之助在宿。勘助、米津世子も白銀如例。白銀も使
来、六ろうそく十挺遣ス。通鑑(ハシ)かへ申候。杜律
五言一ノ二、一本返ル。通鑑廿五、廿六、廿七、三本返
ル。(四)

大十月 建己亥月

朔日 壬寅 晴

講釈如例。大人、稻葉世子如例且、青木も被為入候。元
之助、大養寺に参ル。勘助、柳世子如例。外無事。
白貴も万蔵来ル。掃除也。小茄子もち来ル。これ切也。

二日 癸卯 晴 暖也

讀書如例。大人、米津世子が京極世子如例。元之助、鳥羽世子如例。夜、津輕如例。勘助在宿。土藏大直し。

三日 甲辰 雨 風有り、昼後が晴。

讀書如例。大人、岩村侯が鶴世子如例。元之助、柳世子如例。勘助、京極が小幡如例。左官甚八、本瓦之□人拵ニ参ル。

四日 乙巳 晴 暖也

青山延引。夫故急ニ思ひたち南浦に釣舟をうかへ申候。はせ之魚を三人にて二百廿八ほとり申候。昼之比が大風東風也つれかね申候。外無事。

五日 丙午 晴 └(四一)

讀書如例。大人、濱町が御断来ル。夜、青木侯に被為入候。元之助、深川断ニ而在宿。勘助在宿。

六日 丁未 晴

讀書如例。大人、九鬼侯が柳世子に被為入候。尤、伯太老侯御断参ル故也。元之助、奥殿、明七日乗馬御

上覧ニ付延引申来ル故、宇和世子斗□。夫が大養寺に参ル。例講釈致候。勘助在宿。今日土藏大直し致申候。左官合三人参ル。

七日 戊申 晴 昼之間雷一声、甚大也。此邊無雨。東海寺目黒邊雨雹、且大雨也。

讀書如例。大人、鳥羽世子如例。長谷川公が断来ル。右故、麴町斗□。元之助、津輕斗如例。勘助

(キヤ) 今日も左官大直しニ合四人参ル所、老人ハまとのさんを拵申候。御奥殿母君白責に被為入候。

八日 己酉 晴

讀書如例。大人、田町が赤坂公子如例。夜四ツ半比御帰宅。元之助、小幡世子が如例。勘助、

鶴世子如例。 └(四二)

九日 庚戌 朝曇、入夜雨、夜半止。深夜又雨。

青山如例。上之講釈無シ。元様御不快故也。夜七ツ前帰ル。帰路 (ア) 帰宅以後終夜雨。勘助、米津世子が

東海寺に参ル。是は来月廿四日正受院 (ア) 御十三回忌故、御法事之事取越シ今月廿四日ニ出来可申候哉之由、

聞合ニ参候所、細川先太守御七回忌故、不出来故、来月初ニ御法事可致由、相談致し来り申候と也。

十日 辛亥 晴 好々南風

讀書如例。大人、奥殿^後、宇和世子^先如例。元之助、深

川兩公子如例。尤、今日^も又々参申候。然ル所、大南

風故、永代橋舟渡し止り大橋をまはり申候。勘助、柳

世子^も大養寺如例。

十一日 壬子 晴 寒シ。昼之間暖氣也。

御講釈如例。大人、稻葉世子^も青木侯^に被為入候。

元之助在宿。勘助在宿。青山^之萱堂^{（ムシ）}御出被成申候。

外無事。

十二日 癸丑 晴 朝くもる

讀書如例。大人、米津世子^も京極世子如例。夜

時御帰宅。元之助、鳥羽世子断申候。尤、津輕も断申

候。勘助在宿。白賁^も万蔵掃除ニ来ル。外無事。

十三日 甲寅 晴

讀書如例。大人、深川公子^も鶴世子如例。元之助在

宿。勘助、小幡世子^も京極世子如例。青山萱堂投宿如前。茂平二来、如昨日。

十四日 乙卯 晴 入夜曇、寒冷倍常。指の先赤クなるほど。

讀書如例。大人、小幡之例講^に被為入。^{尤御下屋敷之由ニ而、幸一籠参ル。}

夫^も渡邊老侯如例。夜九ツ時比御帰宅。元之助、奥殿

宇和世子如例。今日^も宇和世子、弁道始ル。^{蒙求相濟故也。}

勘助、米津世子如例。茂平二来ル。如昨日。遠田之

松平元次郎様、此節御病氣之所、差重り申候段、御側頭

中^も内々ニ而申来ル。追而承り合申候所、表向今日^{未ノコト}

御病死之由也。実は昨十三日之由也。御法名は、瑞雲院

殿見才宗性大居士ト申候也。外無事。

十五日 丙辰 雨 時雨り、晴止微雨、時雨之躰也。入夜雷。

讀書如例。大人、遠江侯に御弔ミに御出被遊、夫^も濱

町牧野世子如例。夜九ツ少過御帰宅也。元之助在宿。

尤、深川公子断申候。是ハ青山萱堂、今日御帰り被遊候

ニ付而也。^{尤ハッ半前御帰宅也。}勘助在宿。戸原歴庵より^{是ハ新堀黒田甲斐守殿医師}

也。中すバしり三本、小あじハッ参ル。^{是ハ此間文章直シ遣候礼也。}中す

ばしり三本ハ母君御土産ニ御もち被成候。大工茂平二来ル。

十六日 丁巳 雨 時ふり時止、今夜暮比雷。余程致ス。所ニより大雨。

〔四二二〕

休ミ如例。 大人御在宿。 元之助同様。 勘助同

様。 今日すへ風呂たつ。 大工茂平二来ル。 白責モ万蔵来ル。 掃除也。 大根式把もち来ル。

十七日 戊午 晴 西風夕々暖也

讀書如例。 大人、今日瑞雲院殿玄性院東海寺に塔中に葬送ニ付、御會葬ニ被為入候。 尤、〔ムシ〕青山屋敷にハ不被為入候。 元

之助ハ知生不知死ト申道理故、不參也。 九鬼侯并ニ麴町鳥羽世子之定日之所、二間共御断被遊候。 元之助、津

輕断、長谷川侯如例。 夜九ツ前帰ル。 今夕、梨花ト海棠之花、此節瀾慢故貰ひ来り申候。 勘助在宿。 大工茂平

二、如昨日。

十八日 己未 晴 暖気

讀書如例。 大人、田町モ赤坂如例。 今夕御詩作有之候故、夜九ツ過御帰宅。 元之助、小幡世子、京極世子如

例。 勘助、田町モ鶴世子如例。 大工茂平二来。 外無事。 白銀モ叔父御出被成候。 此節太母君御腫物、御面部也。 如昨日。

十九日 庚申 晴 暖也。 今夕少數雷在り。

讀書休。 大人御在宿。 二人同様。 大工茂平二来ル。

二十日 辛酉 晴 暖倍常。 道なとハ裕ニてもあつし。

讀書如例。 大人、奥殿モ字和世子如例。 今日奥殿ニ而花色之羽二重御小袖出ツ。尤つたの紋付也。 元之助、濱町如例。

夜九ツ過罷帰ル。 今夕駕籠出ツ。是ハ迎人遅き故也。 〔四三〕且、宰領も参り申候。 今日加茂数右衛門方へにもより申候。 勘助、

柳世子如例。 大工同様如昨日、外無事。

廿一日 壬戌 晴

今日詩會、嶋野良純主人、且、嶋野宅ニ而催し申候。 大人は龍土屋代又左衛門方ニ而鳥石十三回遠忌致し申候ニ付、朝四ツ少過モ御出被遊、御帰被成候而、御講釈等可被成之筈之所、暮方ニ大醉ニ而御帰リ。 直ニ島野ニ被為入、夫より少之間被為入候而御帰リ被遊候。 右故、講釈

等之連中ハ罷歸り、無之候。元之助、勘助兩人ハ詩會故、右之申たてニて不参候。今日、麴町鳥羽侯藩之用人、稻垣舍人^ハ交魚籠六ッ参申候。是ハ来ル晦日、國元^ニ出足^ニ付、只今迄之礼也。肴小也。

廿二日 癸亥 晴

讀書如例。大人、米津^ハ京極世子、臼杵世子如例。

元之助、鳥羽世子如例。夫より本多千五郎、津輕如例。

勘助在宿。大工茂平二今日きりニて先休^{（ム）}申候。

廿三日 甲子 晴 入夜雨

讀書如例。大人、岩村侯^ハ鶴世子如例。元之助、青山近江侯^{（四三）}御蒙^{（ウ）}中御伺ひに罷出申候。大人ハ不被

為入候。勘助、松屋^ハ大養寺如例。然ル所、松屋ハ留

主ニ而無之。

廿四日 乙丑 雨 時晴、時雨。

讀書休。大人、東海寺妙解院^ニ瀧ノ口細川侯先靈感院

殿御七回忌ニ付御法事有之故、被為入候。夜六ッ半比御

帰宅。御酒出、御齋食出ッ。併菓子出ッ。元之助、大

養寺^ニ参り申候所留主。暫居而罷歸ル。勘助、米津世

子^ハ小幡世子如例。今日、伊東千之助殿^ハ此間名乗之

御挨拶ニ金貳百疋参り申候。^{是ハ此間名乗を御考被遣候故也。}

廿五日 丙寅 曇 入夜雨、今夕七ッ前少シ地震。

讀書如例。大人、濱町如例。数右衛門方^ハも被為入候。

^{尤加茂氏は當十五日初而被為入候。}夜九ッ過御帰宅。元之助、柳世子如例。

深川迎不来。勘助、松屋^ハ大養寺如例。今日、柳原

之細川侯奥^{（ムシ）}叔母君^{（ムシ）}薩摩芋^{（ムシ）}壱籠御上^{（ムシ）}ケ被成候。是ハ

此節靈感院殿御七回忌故也。外無事。

廿六日 丁卯 曇 昼^ハ晴。朝四ッ半比地震。

讀書如例。大人、九鬼侯^ハ御断来ル。伯太老侯斗也。

夜九ッ半比御帰宅。元之助、奥殿如例。尤、宇和世子

故障之由ニ而延引申来ル。今日、奥殿^ハ龍門嶋一反出申

候。勘助在宿。白責^ハ万藏掃除ニ来ル。麦壱斗六升持

来ル。外無事。

廿七日 戊辰 晴 時曇

讀書如例。大人、麴町^ハ長谷川如例。^{尤長谷川ハ御断来ル所、鳥羽^{（ムシ）}直ニ御出故則御}

（四四）

出被遊 夜四ツ半過御帰宅也。元之助、津輕如例。是日昼候。

ニ相定申候。勘助、大養寺に参ル。客在リ。經書なし。

今日、左官屋参ル。木瓦拵。

廿八日 己巳 雨

讀書如例。大人、田町も赤坂公子如例。夜時御帰。

元之助、小幡世子、京極世子如例。勘助、鶴世子如例。

今日も左官屋参ル。如昨日。青山邸之伊東一族も白

飯来ル。

廿九日 庚午 晴 此節毎夜火事。遠火。

讀書如例。大人、深川如例。夜六ツ半過御帰宅。元

之助、大養寺如例。勘助、米津世子如例。今日も左

官屋参ル。朝之内、溝口、芝崎等参ル。

晦日 辛未 晴 寒冷不堪

讀書如例。大人、奥殿も宇和世子如例。夜五ツ前御帰

宅。元之助、深川如例。尤、菊ひしほと申而かふし讀もらひ申候。濱町も断来ル。

勘助、柳世子如例。左官屋来ル。

十一月 建庚子之月 宿直

朔日 壬申 晴 夜遠火五度

御講釈如例。大人、京極世子如例。夜、青木侯如例。

四ツ少過御帰宅。元之助在宿。勘助同様。築地兼

康栄元老、問学上(ハシ)之事ニ付相見へ申候。白銀も叔御

出被成候。舞岡之相沢氏御出。つくねいも持参。原

宿之高島藤藏見へ申候。山蘇芋二本土産。一宿致し申

候。今日、居風呂たつ。

二日 癸酉 晴 入夜火事六七度在リ

讀書如例。大人、米津世子も白杵世子如例。夜四ツ時

御帰宅。元之助、鳥羽世子如例。且、摂津守様に御発

駕之御祝詞申入候。明後四日發駕也。本多に可参處駒場 御成ニ付

虎之御門をまはり申候ニ付不参。東海寺に来ル 五日正

受院様御法事之事申談シニ使遣ス 弥之由申来ル。是、當月廿四日之

所取越、来ル五日ニ相定メ申候。

三日 甲戌 曇 寒冷不堪、入夜降、青山邊火事、早減ス。
外ニ二度程。

讀書如例。大人、岩村侯も鶴世子如例。夜五ツ時小過

御帰宅。元之助、津輕大養寺如例。勘助、小幡侯

京極世子如例。舞岡之先生御出被成候。深川明

四日之断来ル。明後五日之所明日ニ兼而約置今朝、溝口、財津等見へ申

候。白賁万蔵漬菜持来ル。

四日 乙亥 曇 星比余程之大雨、入夜止ム。時々大南風、遠火二度。 一(四五)

讀書如例。明五日之所、御法事取込ニ付、今日ニ致し申候。 大人御始御在宿。尤、勘助、米津世子御断申

候。上 左官屋、屋根漆喰之相談ニ参ル。

五日 丙子 晴 寒少緩、時曇。

讀書相休申候。尤、御法事に付而也。 今日、来ル廿四日、正受院様

十七御忌取越し今日御法事有之、舞岡之吉右衛門様同道

ニ而御出被成候。白銀之叔父も御出被成候。尤、奥も

御出之可有之所、塗中も泥土ニヤと申事、且、大母君少

く御口中御痛ミ等ニ而、御三人之外御出不被成候。當日

之式如左。

御讀経 楞嚴経 秀山和尚 澄首座 良藏主 雄首座 海首座

英主座 以上八人 和尚共 九人

右讀経相始り申候。これ正午上刻 此方参ル所四ツ半比也。

御香典之分如左

一銀五泉目 大人 一銀 匁 相沢吉右衛門

一銀 武藤小太郎 一銀 匁 服部元之助 同 勘助

供神靈膳

御膳 御汁さい、之め焼豆腐 御向(血に置かもりニ致ス平御坪之心にんじんごぼり) とうのねいも

御平菜あぶらげ 水菜カ 御猪口たき牛 外ニ御盛菓子同 一(四五)

御菓子まんぢう いまさか 已上 外ニ御盛菓子たつきニ饅頭 一(四五)

飯 汁焼とうふのさいのめ 椎茸 冬瓜 坪(すまし) あつき 木茸 平油揚ニ菜

非時

猪口たききこふう 白こまにてあへたの也 香物あさ漬 膳後菓子 饅頭ち

いまさか 一ツ 已上

酒 食籠 麩 硯ふた 九年前 吸物赤みそのはたて つと豆腐 已上

一、當日納所ニ銀式匁五分、雄首座ニ銀式匁五分、御志

ニ被遣候。

右、朝四ツ前出宅、夕七ツ半後、暮比ニ罷帰候。

尤、當日之御法事料金貳百足也。

一、志之牡丹餅外ハ不遣、裏斗。尤、白銀ニても當年、素鏡殿七回忌故、兩方よりやり不致候相談也。

一、昨三日、吉右衛門様御志ニとて札方式拾疋被遣候。

以上

今日、青山より来ル九日より相始り申候儀申来ル。今井谷

先生より札記十四、十五、合二本、尚書十六、十七、十八、合式本。尚書十九

不快之儀申来ル。且、札記十八、十九、合式本。尚書十九

二十合一本借。

六日 丁丑

讀書如例。大人、九鬼侯より渡邊老侯如例。夜八前時御

歸宅。元之助、奥殿より宇和世子如例。勘助在宿。

深沢傳藏より石玉餘魚カレイ貳枚来ル。いづれも生

而おり申候。一枚大○是へ先月廿七日ニ入、一枚小門致候ニ付而也。白銀より宗和之黒碗十

人前かりニ来ル。是明七日（四六）客有之ニ付而也。今日より左官、屋根

之方ニ参ル。

七日 戌寅 晴 昼之間、朝夕寒不堪。

讀書如例。大人、鳥羽世子より御断来ル。元之助、津

輕如例。勘助、長谷川公ニ参ル。今日、左官如昨日、

四人参ル。

八日 己卯

曇

暖倍常、夕酉刻より少刻黄昏大雨滂沱、大雷襲

耳。半夜極晴。入夜暖倍甚。

讀書如例。大人、田町久留嶋侯より赤坂世子如例。夜四

ッ過御歸宅。御駕興也。元之助、小幡世子より京極世子如例。

夜五ッ少前罷歸ル。勘助、鶴世子如例。夜五ッ前帰

ル。今日、左官如昨日、小僧共四人参ル。

九日 庚辰

雨

入夜曇斗、雨止ム。半夜後晴。昼暖也。夜寒

讀書休。青山如例。大人、元之助共参ル。夜九ッ前、

四ッ半比歸ル。尤、元次郎殿病死以来今日より始ル。且、

今日、公并ニ世子に慰作二首進上致し申候。外無事。

十日 辛巳

晴 暖也

讀書如例。大人、奥殿より断来ル。宇和世子如例。尤御講

釈なし。今夜奥斗、仙臺張烟管一本出、御大酔也。元之

助、深川より迎不来。且、濱町よりおとつれ無之故、不参

也。勘助、柳世子如例。左官耆人、小僧耆人、手傳

一人参ル。

十一日 壬午 曇 寒冷不禁。

「(四六)ウ

御講釈如例。今日にて經句解拾遺濟申候。大人、夕

七ツ半過、曰杵世子如例。夜 時御帰宅。元之助在宿。

勘助、今井谷詩會に参ル。晩方六ツ時分帰ル。白銀叔

父御出被成候。永田馬場、渡邊中務大輔殿、為御見舞、

郡内嶋老反参り申候。是は時候見舞也。今朝、溝口詩

經、大西孔子家語ニ参ル。大西登、深澤傳藏兩人、今

日、講釈ニ罷出申候。白銀、宗和黑腕十人前帰ル。今

日御奥ニ而不残東海寺に御参詣、暮六比御帰宅。是ハ當月廿四日正

受院様十三御忌ニ付、五日御取越御法事故、今日御参詣被為在之也。

十二日 癸未 雨 入夜曇斗、寒氣不堪、嚴寒也。

讀書如例。大人、京極世子、米津世子如例。然ル所、

米津世子に被為入候御断也。元之助、鳥羽世子に参り

申候所、是又痰氣之由ニ而断也。夫、本多如例。勘助、

米津世子、大養寺に参ル。外無事。

十三日 甲申 曇 入夜少雪、誠ニ微也。寒風不堪。夜半火事有リ。曉方下谷邊少火。

讀書如例。大人、鶴世子如例。夜五ツ比御帰宅。元

之助、津輕、大養寺如例。夜四ツ過帰ル。勘助、小幡

世子、京極世子如例。

十四日 乙酉 晴 寒風不堪

讀書如例。大人、小幡世子月並講釈如例。夫、渡邊侯如

例。夜 時御帰宅」(四七オ)元之助、奥殿如例。宇和

世子断、十六日替日申来ル故、是又不相成、断申候。

勘助、白責に見分ニ参り、夫、松屋参ル。白責に参り申

候節、来ル廿日大根ひき之事申遣ス。

十五日 丙戌 晴

讀書如例。大人、濱町に御断来ル。夫、柳世子如例。

元之助、深川に迎不来、終日在宿。勘助在宿。

十六日 丁亥 曇 朝曇、昼晴、夕、雨、曉、余程雨。

青山如例。夜九ツ過罷帰ル。勘助在宿。少風氣也。

十七日 戊子 雨 入夜暖也

讀書如例。大人、少し御風氣故、宇和世子御断被仰遣

候。然ル所、雨天故御駕與参ル。不被為入候。且、鳥羽

持病之由にて断来ル。元之助、風邪故長谷川に断遣

ス。津輕にも不参候。勘助、風氣平臥。左官甚八に金

沓片二方渡ス。

十八日 己丑 曇

元之助、勘助風邪故、讀書休。大人、御快氣。九鬼

赤坂如例。夜 時御帰宅。元之助、小幡世子、京極

世子兩方に断遣ス。小幡ハ迎参故、夫ニ申遣ス。勘助、

鶴世子迎参ル。断リ申遣し候。左官耆人、手傳一人参

ル。又々今日
始。

—(四七)
ウ

十九日 庚辰

晴

屋後八ツ時分大西風也。夫々曇、
寒不堪。

大人、青山如例。元之助、不快故不参。勘助快氣、

且、在宿。左官甚五郎耆人参ル。

廿日 辛巳

晴

讀書如例。大人、奥殿より字和世子如例。夜五ツ前御帰。

元之助、深川より迎不来故、不参。濱町より断、又は迎之人

不参故、此方より参ル。然ル處、深川迄断行申也。右故、

加茂氏斗に参ル。其内世子御帰り。又有之候積り之所、

終に延引。駕輿ニ而帰ル也。勘助在宿。但し、明廿一

日詩會、此方未取紛レニ付、大養寺に談合ニ参ル。今

日、御輿ニ而白責に大根拔ニ御出被遊候。大駄五百五十

本程有之候。

二十一日 壬午

晴 夜少火二度

御講釈如例。詩會、今日大養寺ニ而御催シ有之候。人

十四五人参ル。久留嶋藩之平松三藏と申者、主人致し

申候。外無事。左官屋、今日より平かへの漆喰塗かゝり

申候。

廿二日 癸未

晴

寒不堪。四ッ谷御門外、夜八ツ時出火、
宵之内少火二度。

讀書如例。大人、久留嶋被為入。此間十八日
之替日也。夫々米津世

子。夫々臼杵世子に被為入候。夜五ツ半過、四ツ時御帰

宅。元之助、鳥羽世子より本多如例。今夕は堀田より
参り申候。勘助、

田町より金杉に参ル。

廿三日 甲申

晴

朝夕酷寒、此節皆同シ。

讀書如例。大人、深川二公子より鶴世子如例。夜五ツ時

比御帰宅。元之助、津輕より大養寺如—(四八)例。夜五ツ

半前帰ル。 勘助、小幡世子如例。京極_{世子}断也。元

之助、来ル廿五日ニ此間十八日之替リニ小幡世子_ニ可参
由申通候所、外之稽古事之由ニ付、廿五日ハ不参候。

左官如例。

廿四日 乙酉 晴 好西北風、入夜大寒。下谷邊出火三度、_昼牛込邊一度。

青山、大人、元之助共如例。然ル所、公世子、玄性院_ニ

御出、夕御帰。夫_御講釈有之候故、夜ハツ半時罷帰

ル。 勘助、今日東海寺_ニ代参ニ参ル。<sub>是ハ當日、正受院様御
十三回忌御當日ニ付也。</sub>

夫_{米津世子}ニ参ル。 左官、如昨日。 今日、白銀_御

御出被成候。 白賁_御万蔵、大根持来ル。 外無事。八

丁堀、松平信濃守殿_御使来ル。 明後廿六日冬夜故、御會

御催シニ付、大人_ニ可被為入由也。 瑞雲院殿<sub>元二郎
公子也</sub>御遣

物、内_ニ而掛物一幅出申候。 珉山之畫、虎之畫也。

廿五日 丙戌 晴 嚴霜寒冷不堪

讀書如例。 大人、濱町如例。 夜九ツ過御帰宅。 尤、今

日は御稽古無之、宇和御出ニ付、夫_{大人}も被為入候

所、殊之外御大醉也。 元之助在宿。 勘助在宿。 左

官甚八老人参ル。 戸口の木瓦拵申候。

廿六日 丁亥 晴

讀書如例。 大人、九鬼侯_御断来ル。 夕_御八渠堀之松

平信濃守殿_ニ冬夜ニ付、御出被成候。 夜五ツ半比御帰被

遊候。 元之助、奥殿_御宇和世子如例。 夜五ツ時帰ル。

勘助在宿。 左官甚八一人、如昨日。 遠山侯_御書物

取替ニ来ル。 卅八<sub>一本
帰ル</sub> 卅九 四十 四十一、四十二

以上合三本借ス。

廿七日 戊子 晴 暖和如春

〔(四八)
ウ〕

讀書如例。 大人、鳥羽世子如例。 暮前御帰宅。 元之

助、柳世子_御大養寺如例。 勘助在宿。 左官甚八一人

参ル、如昨日。 今日_御傳兵衛仕事ニ来ル。 此節、今

日比錢相場老奴ニ老賁三百九十二文、米之相場、古米之

払ニ而両ニ六斗七升之相場也。

廿八日 己丑 晴 入夜火事六度。皆遠、早く滅。下谷、小
石川、四ッ谷、本郷等也。

讀書如例。 大人、田町之久留嶋侯_御赤坂之公子如例。

夜四ッ少過御帰宅。 元之助、小幡世子_御京極世子如例。

夜五時帰ル。勘助、鶴世子に参ル所、御風氣之由ニ而直ニ帰ル。左官甚八、同重兵衛如例。傳兵衛如昨日、書藏下見致し申候。

廿九日 庚寅 晴 日暖也。昼は北風大烈シ。入夜火事三度。

大人、奥殿の字和世子如例。夜六ツ半比御帰宅。元之助、深川両公子は濱町如例。然ル所、笠間世子は此方に留主ニ断来不知而参。夫故、世説斗、夜四半時帰。駕輿也。勘助、米津世子は大養寺如例。左官甚八、同重兵衛如昨日。傳兵衛同様。今日東之牆根つくろい申候。

大 一二月 建辛丑之月

朔日 辛卯 晴 酷寒不堪

御講釈如例。大人、臼杵世子は京極世子如例。夜時御帰宅。元之助在宿。勘助同様。左官甚八、重兵衛参ル。小僧手傳一人。雨底上ぬり致し申候。今日式兩渡シ申候。白銀之叔(四九オ)御出被成候。深川は明日之御断来ル。藝藩之古田五兵衛、掛物一幅頼ミ来申候。

岩村侯は明後三日、蕎麦切御ふるまい可申上候間、其思召ニ而御出可被下候由、申来ル。傳兵衛如昨日。下水之ふち等拵申候。

二日 壬辰 晴 昼後迄寒不堪、入夜少火事三度。大北風也。

讀書如例。大人、米津世子に被為入候處、御断。夫は柳世子に被為入候處、又御断。夫は京極世子に御出被遊候。夜四ツ時御帰宅。元之助、鳥羽世子は本多如例。夜五ツ後帰ル。勘助、津輕に参ル。是へ元之助名代也。夫は木曾徳藏方に参ル。左官甚八、同重兵衛如例。小僧手傳一人参ル。傳兵衛如例。外之下水拵申候。白賁は万藏掃除ニ来ル。

三日 癸巳 晴 暖氣如春三月

讀書如例。大人、鶴世子御断、岩村侯斗に被為入候。今日、蕎麦切御ふるまひ。先當年は今日にて終會也。夫は柳世子に御出被遊候。夜時御帰宅。元之助(ツヤミ)勘助、小幡、京極世子如例。左官甚八、同重兵衛来。窓木瓦漆喰、土藏南側平漆喰等致申候。傳兵衛如例。

西側牆根致申候。今日も大工善次参申候。

四日 甲午 晴 入夜四ツ時少地震

青山如例。元之助共兩人、夜四ツ時半罷帰ル。勘助、

米津世子も白銀叔に此間朔日之夜分(四九)之火事見舞ニ

参ル。尤、二日も同人見舞ニ遣申候。左官甚八、重兵

衛、手傳小僧無之如例。傳兵衛如昨、東側牆致し申候。

大工善次如例。今日ニ而櫓子出来申候。

五日 乙未 晴

讀書如例。大人、深川公子に御出被成候。今日ニて當

年は御休ミなり。右故、元之助、今日不参。元之助、津

輕も神田長谷富に参候。松風、不残仕廻申候。夜九ツ時

比帰。(アキマ) 勘助

六日 丙申 晴

讀書如例。大人、九鬼侯も渡邊老侯如例。夜九ツ半時

御帰被遊候。元之助、奥殿も大養寺に参。是ハ留守ニ

而早ク帰ル。屋代又左衛門も初心傳三本帰ル。勘助

在宿。左官参入、大工善次、傳兵衛如例。

七日 丁酉 晴

讀書如例。大人、鳥羽も断来ル。夫も青木侯に被為入、

且、柳世子に被為入候。元之助、長谷川君に参り申候。

勘助、谷中玄妙院に参詣仕候、如例。御茶湯妙榮様 妙長様 元惠様 御三人之

御茶也。料南鐙沓片遣し申候。且、玄妙院入院之祝儀ニ銀式

匁五分遣ス也。夫も本行寺に遣ス。是又、如例年御茶

湯料式匁遣ス。是又入院之祝儀ニ銀沓匁八分遣ス也。

左官、大工傳兵衛等、三人共如昨日。

八日 戊戌 晴 入夜少火一度

讀書如例。大人、田町も赤坂公子如例。夜四ツ少過御

帰り被遊候。元之助、小幡世子も京極世子如例。夜六

半比御帰リ。勘助、鶴世子御断来ル故、在宿。大工、

左官如例。

九日 己亥 晴 尤朝之内雨、昼も晴。

讀書如例休。大人、元之助共、青山如例。尤、當年は

先今日迄ニて相休ミニ成申候。論語微、先進篇、子張問

先人道、落問詩經、小雅鹿鳴も写本詩經も勘助、

米津世子、會終なり。左官、大工如例。

十日 庚子 晴

讀書如例。大人、奥殿^ヲ宇和世子如例。夜六ッ半比御

帰宅。元之助、深川二公子如例。今日ニて會納也。酒

出ッ。濱街断也。勘助、柳世子に参り申候所御断也。

左官、大工如例。

十一日 辛丑 晴

讀書如例休ミ申候。御講釈今日ニて相濟申候。左傳

杜律 迄 元之助、今日宇和世子會納也。酒不出。

尤、十四日之替り也。入夜、深澤傳藏方に参。夜九ッ過

罷帰ル。勘助在宿。左官、大工如例。

十二日 壬寅 晴 昼八ッ比大雨、入夜止ム。入夜少火一度。

讀書如例。大人、米津世子御會納。夫^ヲ京極世子。

元之助、鳥羽世子會納。^{酒出}夫^ヲ京極世子^(五〇)會納。

勘助、小幡世子會納。小紋九曜紋付、麻上下出ッ。夫^ヲ

京極世子。以上三人共、夜四ッ半比罷帰ル。如例、中醉

態。左官、今日ニて相濟、大工如例。

十三日 癸卯 晴 入夜少火一度、夜八ッ時寒入。

讀書如例。大人、昼後^ヲ青木侯會納。元之助、勘助在

宿。今日吉日ニて、且、御土藏出来故、道具相納申候。

大工如例。

十四日 甲辰 曇 夕^ヲ晴

讀書休。今日煤取吉日也。大人、小幡世子^ヲ渡邊老侯

御會納。夜九ッ半比御帰宅。元之助、勘助共煤取故在

宿。裏^ニも酒。今日風呂たつ。

十五日 乙巳 晴 暖也、入夜少火、小石川邊一度。

讀書如例。大人、龍ノ口邊寒氣見舞御勤。<sup>熊本大臣
侯等也。</sup>夫^ヲ

濱町如例。夜九ッ少過御帰宅也。元之助、大養寺に参り

申候所、風邪故講釈無之。夫^ヲ津輕に参ル所、今日ニて會

納也。酒出、如例年。勘助、松屋に参ル。今日ニて會納

也。柴田五郎八^ヲ大鰯魚三本来ル。<sup>寒氣見
舞也。</sup>大工今日限。

十六日 丙午 晴 時曇

讀書致し申候。大人御在宿。元之助、柳世子今日ニ

て會納也。昼八ッ半前^ヲ参。入夜六ッ少過罷帰ル。勘

助在宿。能登侯。寒氣見舞大鱷二本來ル。

十七日 丁未 晴

(五一)
(オ)

讀書如例。大人、鳥羽世子。長谷川公如例。夜四ツ半

時過御帰宅。元之助、柳世子今日限り也。大人、長

谷川公にて裏付龍紋小紋上下出申候。勘助

(アキマ)

十八日 戊申 晴 北風揚塵

讀書今日限也。大人、赤坂左公子今日にて御會納。夜

四ツ半比御帰宅。元之助、久留嶋出雲守殿、此間叙爵

之御祝。大人御名代、且、自分祝儀兼参り申候。尤、藩

中にも不殘寒氣見舞ニ参ル。勘助、鶴世子御断來ル。

久留嶋侯、十七日ニ出雲守ト御叙爵也。

十九日 己酉 晴 入夜火事一度

讀書今日。相休ミ申候。大人、久留嶋侯御會納。勘助

同道。元之助在宿。大人、久留嶋侯如例。且、つき

上下出申候。肩衣ハす。竹色の紗ニ紋丸ニ羽扇三ツつな

き、御袴萌黄琥珀丹後嶋也。夜九ツ過御帰宅。寒氣見

舞之外無事。當年寒氣見舞ニ密柑夥數寄申候。

二十日 庚戌 晴 風有リ、入夜遠火五六度、深川、本庄、
浅草、本郷等也。早滅ス。

大人、伊達侯御會納。夫。奥殿侯。被為入候。是又會納

にて蕎麦ふるまひ也。奥殿、麻上下也。宇和世子ハつき

上下也。對馬侯當十六日叙爵對馬守例之稽古所ニ而酒出申候。公も

折ニハ出被成候。且、間違ニて是ハ大人御約東御失念又々夫。夜五時、

直ニ宇和世子。被為入候。夜九ツ時御帰宅。

是又(五一)奥殿會納。麻上下也。夜四ツ時帰ル。大人御

一所ニ道迄帰申候。

二十一日 辛亥 曇 朝風、夕七ツ比。晴、入夜遠火二度、
且、大坂町半町程やけ申候。

御詩會如例。今日主人、清水安兵衛、嶋野雉一羽持参。

村田小富酒二斤持参。且周礼流本終卷ト前一本、合二本

借ス。今夕、明日、餅ヲ練申候仕度致し申候。例年之

通り道具、菊池。借用。今井屋茂八頼ミ申候所、遠方ニ

参候由故、其近所之人頼ミ申候而米杯とき申候。代六十

四文也。外無事。

二十二日 壬子 晴 寒不堪、入夜九ツ比。大西北風。

今日、餅練如例年。大人、柳世子。被為入候。今日御

會終。郡内嶋一反出申候。今日、柳侯^{カサ}かすの子一袋、

密柑一籠、寒氣見舞参り申候。元之助、本多千五郎^ニ参

ル。會納也。夜九ツ時帰ル。序ニ和泉屋^ニ銀三枚兩替ニ

参ル。相場五拾九匁四分、老匁ニ付八拾八文かへ也。

大人、今日夜四ツ比御帰宅。勘助在宿。遠山侯^カ大

好ひらめ一枚来ル。今日餅ニやとひ申候者、則今井屋

茂八也。代二百銅遣ス。且、しざいもち七ツ程遣ス。全

駄二百五十文之所、昨夜之人六拾四文故也。

廿三日 癸丑 晴 烈風寒不堪

大人、和泉侯世子御會納。元之助、勘助在宿。今日、

柳原^ニ使遣ス。御上^ニ小交肴一籠。尤先^ニ此間みかん
六十七ほど来^ル。伊崎^ニ

しほから、嘉川^ニ菜漬^{ナヅケ}、序ニ神田^ニ如例金百疋、みかん

二十五[」](五二)遣ス。外無事。目錄使。

廿四日 甲寅 晴 寒甚

大人、青山^ニ御禮ニ被^レ為入候。元之助、東海寺^ニ参ル。

例年之通り金三百疋。酒不出。帰路ニ白銀^ニより申候。

大人、少御不快ニ而夜八ッ半比御帰宅。大駄七ツ時也。

勘助在宿。外無事。

廿五日 乙卯 晴 入夜大雨、夜曉より烈風。

大人御在宿。元之助、勘助共同様。今日濱町^ニ使遣

ス。文学^カへ度
事ニ付而也。加茂数右エ門^ニ小菊一束遣ス。是^ハ先遣^ニ而度、
たばこ頼^ル也。

和泉藩今井、伊東^(アセ)三人^ニみかん一重^ニ、浦崎^ニ菜

漬一重、且宇和鰯^ニ、松尾^ニ納豆。山崎彦惣左衛門密柑一重

上^ニ此間御ふた物移りに鰻重二百孔分。むしかれひ二

枚。以上三品鶴
侯^ニ上^ニ也。今日、白銀^カ使来ル。中ひらめ一枚遣ス。

青山より人来ル。みそれ酒半徳利程来ル。中ひらめ一枚

来ル。是^ハ廿四日^ニいな^ノ秀坊^ニ
服祝ニ大鯛二本被^レ遣^ル也。外無事。

廿六日 丙辰 晴

大人、御痔^ヅ疾之御塩梅。元之助、勘助在宿。」「^(五二)

編注 1 十一月十九日以降の干支は誤記と思われるが原本の

ままとした。

2 後表紙およびその見返しに菜の処方の付箋その他種

々の書入れがあるが、直接日記の記事と関係がない

と思われるので省略した(以下同)。

(担当) 鎌倉喜久恵
(校訂) 柴田 光彦